

岐阜大学夏期短期留学 サマースクール2006



LUND UNIV.



SEOUL NATIONAL UNIV.
OF TECHNOLOGY



GRIFFITH UNIV.



GIFU UNIV. SUMMER SCHOOL

Gifu University

SUMMER SCHOOL 2006 REPORT CONTENTS

巻頭言

.....	1
-------	---

第一部 夏期短期留学(受入)

プログラムと日程.....	2
日本語の授業.....	5
日本事情講義.....	7
エクスカージョン.....	11
国際理解教育.....	14
岐大生との交流プログラム.....	17
夏期短期留学参加生名簿.....	18
ホームステイファミリー.....	19
宿舎チューター.....	22
宿舎チューター名簿.....	25
私の心に残るこの一枚.....	26
まとめの会とアンケート集計結果報告.....	34

第二部 夏期短期留学(派遣)

グリフィス大学.....	40
短期留学(サマースクール)参加者アンケート.....	61
岐阜大学夏期短期留学(サマースクール)担当者一覧.....	66

国際社会におけるグローバル化と驚異的な情報通信技術の発達により、国をまたがった「人」の移動は頻繁になって来ている。日本国が積極的な国際化を目指す中で、わが岐阜大学留学生センター（International Student Center）は国際社会の発達に貢献することを企図して、「留学生」交流の推進に永年情熱を傾けてきている。留学生交流の意義として考えられることとして、1) わが国と留学生の母国との架け橋として、両国の友好信頼関係の構築、発展に寄与する、2) わが国の教育研究の活性化および地域社会の国際化を促す、3) 開発途上国の人材養成に寄与することなどを挙げることが出来る。

当該留学生センターを主体にして運営された「岐阜大学夏期短期留学／サマースクール2006」は、極めて興味あるプログラムを包含していると自負できるものであった。即ち、国際理解・国際交流に不可欠な教育、学術、スポーツおよび文化・芸術といった分野が短期留学中にきめ細かく周到に用意された事業であったからである。

今回のサマースクール事業が、ルンド大学（スウェーデン）およびソウル産業大学（韓国）の留学生を魅了した理由は学生個々の感性の相違により多岐に亘るが、以下の点がその源泉のように思われる。まずは、学長・理事・はじめセンター教職員各位が、留学生の学習意欲を助長させる為に、日本語・日本事情レベルの向上とわが国における歴史や文化への理解に率先したこと、また、日本語や英語を介して国際社会が直面する重要課題への認識とその解決策を相互に模索することにより、発想力豊かな人間形成の育成に勤しんだことなどが挙げることが出来る。次いで、特筆すべき事は岐阜県郡上市の国際友好協会の協力を得て、日本の風土に適した家屋と日常生活・歴史に根ざした郡上踊りとその体験や茶道、書道および禅の「こころ」の世界への誘いなどのプログラムの後、彼らが待ちに待ったホームステイによる体験型プログラムが組み込まれていることである。国や異文化世界に育った者同士が、国を超えた人と人の繋がり

の運命的出会いと愛しさを相互に感じあったことだろう。留学生センターでは、留学生と地域住民との国際交流活動への積極的な支援活動を展開している。更に、岐阜大学学生チューターと留学生とが寝食を共にしたこのサマースクールにおける交流中の出来事は、言葉ではとても言い表せないほどのドラマとハプニングの数々であり、その体験と難局を乗り越えた自信は両者の信頼と英知となり、今後変ることのないお互いの絆と人格形成に多大の成果を収めたことが類推できる。

岐阜大学におけるサマースクール・プログラムや様々な異文化体験を生かして、母国とわが国の架け橋となってくれることを切に願っている。

また、留学生センターでは、留学生に対する日本語教育・日本事情、生活指導、学内の国際化推進、地域との交流事業等を積極的に進めている。近年の急速な留学生の増加にも柔軟に対応し、学生の多様な教育・研究環境に応じた良質な支援を行っている。今後とも引き続き、留学生の日本語教育・生活指導支援に取り組んで行くので、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げたい。



第一部 夏期短期留学(受入)

プログラムと日程

留学生センター・教授 森田 晃一

国立大学法人・岐阜大学となって3年目、学内体制の改変も進み、新たに学内の留学生全体の事を審議する留学生交流委員会が発足した。これに伴ってサマースクールの計画・実施に当たってきた留学生交流推進委員会が消滅、サマースクールの計画・実施に関しては留学生交流委員会で行うこととなった。3年前国立大学法人となったのを機に、サマースクールは全学の事業と位置づけられたが、その後も計画・実施に関しては、留学生センターの下部組織である留学生交流推進委員会で進めてきた。留学生交流委員会の発足により、その不整合が改められたことになった。運営に関しては、従来どおり、全面的に留学生センターが担当している。

今年も例年どおり、8週間コース(6月5日~7月31日)と3週間コース(7月5日~7月31日)を設置し、8週間コースにはスウェーデン・ルンド大学から13名、3週間コースには韓国・ソウル産業大学から5名が参加した。ルンド大学からの参加学生13名は、昨年が23名だったので10名少なくなっているが、これはルンド大学の制度変更により、昨年は日本語科に学ぶ学生数が多かった年である、という事情に起因するものである。それにしても、この4年間の推移は、13名→18名→23名と

順調に増加していたものが、一挙に13名に減少したもので、全国各地でサマースクールを実施ないしは計画している国立大学も増えていることから、この現象を一過性のものでせず、受け入れ体制の適否など、今一度深く見直して行かなければな



らないだろう。なお、交流協定締結予定校の韓国・木浦大学から、1名の参加希望が届いていたが、ビザの関係で参加が実現せず、この学生にはとても残念なことであった。

本学のサマースクールは例年、①日本語授業、②日本事情講義、③見学、④エクスカージョンを柱に、期間中に歓迎会・岐大生との交流会・まとめの会・歓送会などが行われている。今年は以上に加えて、地域科学部・工学部と共同での国際理解教育が実施の運びとなった。サマースクール参加学生と岐大生が、ともに1つのテーマを設定して学び合う授業である。まだ、改善の余地はあるが、サマースクールのプログラムの一つとして定着させたいと考えている。

日本語の授業は、毎週月曜日から木曜日まで、午前中に2コマずつ実施した。8週間コースの参加学生については、事前にルンド大学からレベルの連絡があり、大きなレベル差は見られなかったので、A・Bの2クラスに分けて同じ内容の授業を実施した。3週間コースの参加学生については、来日後に取りあえずレベルチェックを行い、問題がなかったのでA・Bのクラスに入ってもらった。今年の参加学生たちは、例年にも増して真面目に取り組む学生が多く、8週間あるいは3週間での学習成果を大いに上げたようである。使用テキストは、担当教員が十分に協議した上で決定しているが、今年は昨年と同じテキストを採用した。授業担当の教員は、授業内容についてメールで情報交換し、学生たちの様子、進度などを確認しながら授業を進めた。

日本事情の講義は、講師の都合により若干の変更はあるが、例年どおり原則として金曜日の午前中に実施することとした。昨年は7回だったが、今年は1回増えて8回行った。講義内容は、見学・エクスカージョンと関連したものであるが、今年は見学の一つを、刀研ぎから陶芸体験に変えたので、講義内容もこれに合わせて変え、陶芸に造詣の深い黒



木登志夫学長にお願いした。また、昨年初めて「能楽」を企画し、外部の一流講師・専門家に依頼して、本格的な講義と実演を実施したが、好評であったため今年度も行うこととし、今年の講義は実演を担当してくださる味方團氏の紹介で、観世流シテ方・河村晴久氏にお願いした。各回は、梅村将夫「Japanese Economy and Recent Development」、河村晴久「能について」、武脇義「心の仕組み」、味方團・田茂井廣道「能の実演」、黒木登志夫「日本の陶芸」、橋本慎吾「相撲」、森田晃一「日本の伝統1(郡上)」、土谷桃子「日本の伝統2(京都)」といった内容で、本格的かつ多彩な内容が提供でき、例年よりも参加学生たちの満足度が高かったようである。

見学に関しては、前述のように、参加学生たちの評価が今ひとつだった刀研ぎを止め、多治見まで移動して陶芸体験をすることに変更した。轆轤を回しての作陶、筆を手にしての絵付けは、当初想定していた以上に評判がよく、皆、約1か月後の焼き上がりを楽しみにしていた。ただし、作陶・絵付けの時間配分については、今後課題を残した。大相撲見学は、例年と同じく好評であった。

見学に関しては、前述のように、参加学生たちの評価が今ひとつだった刀研ぎを止め、多治見まで移動して陶芸体験をすることに変更した。轆轤を回しての作陶、筆を手にしての絵付けは、当初想定していた以上に評判がよく、皆、約1か月後の焼き上がりを楽しみにしていた。ただし、作陶・絵付けの時間配分については、今後課題を残した。大相撲見学は、例年と同じく好評であった。

エクスカージョンは、例年どおり郡上と京都の2か所であったが、参加学生たちには深い印象を残したようであった。

郡上へのエクスカージョンは、郡上市の国際友好協会の全面的な協力によって行われ、参加学生たちは3泊4日の日程で市内にホームステイした。初日は、まず紙細工・郡上踊り・書道などの講座を体験し、夜は地元の方々との交流会に出席し、その終了後にそれぞれホストファミリーの家へと向かった。翌日は、午前中に座禅・茶道を体験し、午後はフリータイムとなり、旧庁舎記念館前での郡上踊りを楽しんだ。3日目は、終日ホストファミリーと過ごす日であり、参加学生



たちは、ゆったりと時の流れる静かな町・村で、貴重な時間を過ごしたようである。最終日の評価会では、ホストファミリー側の感想、参加学生たちの感想、それぞれ思いのこもった言葉が吐露され、あちらこちらで別れを惜しむ光景が見られた。

京都へのエクスカージョンだが、伝統的な建造物である神社・寺院・城郭を組み合わせての設定は例年どおりだったが、昨年の反省を踏まえて若干の変更を試みた。まず初日は、上賀茂神社の見学から入り、昼食後は、龍安寺・銀閣寺を回って清水寺を拝観、ここで各自参道を自由に散策しながら、土産物を購入する時間を取った。2日目は、午前中に二条城をかなりの時間をかけて見学、その後嵐山を散策してから昼食を摂ったが、ここで和菓子の実作体験を行った。午後は、三十三間堂を見学し岐阜へと戻った。毎年のことだが、京都に対する参加学生たちの関心は高く、とても熱心に見学するため、たちまち時間不足に陥ってしまう。京都を思いのままに見学するため、フリータイムの設定を希望する学生もいるが、1泊2日の日程で果たしてそれらの解決が可能であるのか、来年に向けて検討してみたいと考えている。



ところで、サマースクールの期間中、参加学生たちは大学の学外研修施設を宿舎として利用する決まりになっ

ている。今年は、ボランティアの岐大生チューター10名が、常時3名ずつ泊まり込んで、参加学生たちの世話をしつつ、学生同士で互いに密度の濃い交流を行った。参加学生たちも一様に、チューターの存在を高く評価しており、本学のサマースクールが成功していると考えられる。それゆえ、今年から表彰を行うことになり、連年チューターを務めてくれた2名が、その栄誉を担った。今年の参加学生たちは、落ち着いた学生がほとんどで、宿舎でもこれといったトラブルも生じず、幸いであった。

今年もまた、最終日のフェアウェル・パーティーには、大学関係者のほか、郡上市からもホームステイ・ファミリーが大勢駆けつけてくれた。広い会場内の各所で、別れを惜しむ姿が見られ、心温まる光景を見ることができた。このパーティーは、スタッフ一同が、来年への活力をもらうパーティーでもある。

2006 年度夏期短期留学(サマースクール)受入日程

期 間：8 週間コース [2006 年 6 月 5 日(月)～7 月 31 日(月)]

3 週間コース [2006 年 7 月 5 日(水)～7 月 31 日(月)]

参加人数：18 名【内訳...ルンド大学 13 名，ソウル産業大学 5 名】

6 月 5 日(月)	6 月 6 日(火)	6 月 7 日(水)	6 月 8 日(木)	6 月 9 日(金)	6 月 10 日(土)	6 月 11 日(日)
学外研修施設入居手続き	学外研修施設入居手続き	8 週間コース開始 14:00 留学生集合 開講式 14:30 - カリキュラム等 ガイダンス	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	17:30 歓迎会	フリー	フリー
6 月 12 日(月)	6 月 13 日(火)	6 月 14 日(水)	6 月 15 日(木)	6 月 16 日(金)	6 月 17 日(土)	6 月 18 日(日)
日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本事情講義 1 10:30 - 12:00 (日本経済とその最近の状況) 講師：岐阜大学理事 梅村 将夫	フリー	フリー
6 月 19 日(月)	6 月 20 日(火)	6 月 21 日(水)	6 月 22 日(木)	6 月 23 日(金)	6 月 24 日(土)	6 月 25 日(日)
日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00) 日本事情講義 2 13:30 - 15:00 (能) 講師：観世流シテ方 河村 晴久	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00) 日本事情講義 8 13:30 - 15:00 (心の仕組み) 講師：留学生センター長 武脇 義		フリー	フリー
6 月 26 日(月)	6 月 27 日(火)	6 月 28 日(水)	6 月 29 日(木)	6 月 30 日(金)	7 月 1 日(土)	7 月 2 日(日)
日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00) 日本事情講義 3 13:30 - 15:00 (能の実演) 講師：観世流シテ方 味方 團	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本事情講義 4 10:30 - 12:00 (日本の陶芸) 講師：岐阜大学学長 黒木登志夫 《見学 1》 陶芸 (13:00 - 17:00) 引率(芳村)	フリー	フリー
7 月 3 日(月)	7 月 4 日(火)	7 月 5 日(水)	7 月 6 日(木)	7 月 7 日(金)	7 月 8 日(土)	7 月 9 日(日)
日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00) 3 週間コース開始 14:00 集合 14:30 ガイダンス	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本事情講義 5 13:00 - 14:30 (日本の芸能とスポーツ) 【橋本】	フリー	フリー
7 月 10 日(月)	7 月 11 日(火)	7 月 12 日(水)	7 月 13 日(木)	7 月 14 日(金)	7 月 15 日(土)	7 月 16 日(日)
日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00) 《見学 3》 大相撲 (13:00 - 18:00) 引率(阿閉)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00) 日本事情講義 6 13:00 - 14:00 (日本の伝統 1) 【森田】	エクスカージョン 1 「郡上」 引率(武脇・森田) 岐阜大学出発 8:30 - 郡上のホストファミリーで 7 月 17 日(月)まで ホームステイ	フリー	フリー
7 月 17 日(月)	7 月 18 日(火)	7 月 19 日(水)	7 月 20 日(木)	7 月 21 日(金)	7 月 22 日(土)	7 月 23 日(日)
郡上発 11:00 学外研修 13:00 (海の日)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00) 日本事情講義 7 13:00 - 14:00 (日本の伝統 2) 【土谷】	エクスカージョン 2 「京都」1泊 2日 引率(原田・三谷)		フリー	フリー
7 月 24 日(月)	7 月 25 日(火)	7 月 26 日(水)	7 月 27 日(木)	7 月 28 日(金)	7 月 29 日(土)	7 月 30 日(日)
日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	日本語授業 (A・Bクラス同時進行) 1 時限(8:50 - 10:20) 2 時限(10:30 - 12:00)	まとめの会 9:00 - 10:30 (日本語で発表 フィードバック) 17:30 - 歓送会	学外研修施設退居	学外研修施設退居	学外研修施設退居	学外研修施設退居
7 月 31 日(月)	学外研修施設退居					

日本語の授業

留学生センター・講師 橋本 慎吾



サマースクールの主たる目的は日本文化に触れたり、日本人と交流したりすることであるが、午前中に開講する日本語講義も学生達にとっては意味のあるものようだ。

日本語授業は、昨年度のカリキュラムをベースに計画を立てた。相手校の Rund 大学から事前に行なったテストの結果を送付してもらい、学生の日本語レベルは事前に知ることができた。おおむね昨年と同じく初級終了レベルだったので、教科書は昨年同様『中級へ行こう』（スリーエー・ネットワーク）を使用した。この教科書は、初級文法を使いこなすことを主眼に編まれたものであり、また内容もコンパクトなので、サマースクールのような短期集中コースに合った教材である。ただ読解が短いため、

授業で使うには物足りないので、担当講師に読解補助教材を作成してもらい、授業で使用した。実際の授業における留意点としては、学生は知的欲求が高く、単なるパターン・プラクティスのような文法練習ではつまらないと感じてしまうので、習った文法を使って実のある会話を行なうことにポイントを置いた授業を心がけた。

学生間の日本語レベルに大きな違いはなかったので、名簿順で2クラスに分けた。7月になって3週間コースのソウル産業大学の学生5名が加わった。ソウルの学生のうち、2名は日本語能力試験2級レベルであると判断されたが、学生たちの要望で Rund の学生と同じ教室で学ぶこととなった。できる学生には多少易しい内容ではあったが、学生たちは文

法項目以外のところで質問したり文作したりして、意欲的に授業に参加してくれた。

昨年度は猛暑にもかかわらず教室のクーラーの効きが弱く、学生の学習意欲に影響がでたが、今年度は会議にも使用する部屋を借りることができ、快適に過ごすことができた。期間中の住居である学外研修施設は大学からかなり離れたところにあるが、学生たちは暑い中自転車を走らせ、ほとんど欠席や遅刻をすることなく授業に参加してくれた。

またどの学生も控えめで真面目で、よく勉強して

いた。教授側の反省としては、文法を教えることよりももう少し会話を楽しむ教室活動ができればよかったと思う。使用教科書は各課に作文課題があったが、みなきちんと提出した。この授業が学生の日本語学習の一助になっていれば幸いである。

担当講師(50音順)

加藤由紀子・杉山純子・野原美和子・橋本慎吾・宮谷敦美・六郷明美



日本事情講義

日本事情講義 1

日本経済とその最近の状況

岐阜大学・理事 梅村 将夫

若いヨーロッパの学生には日本がそれなりの努力によって今の裕福さを獲得したことと、一方、克服しなければならない問題を抱えていることも知って欲しいと考えて話をした。ただ、昨年の経験を踏まえてもっと日本を取巻く国際経済環境を語るべきだったと思った。留学生からは父親の仕事の観点から今後の中国の発展、とりわけ技術開発面で、について質問があり、中国・アジア経済の動向に強い関心があることを改めて認識した。歴史より今ある日本を出発点とした国際経済環境の話をするべきだと感じた次第である。



日本事情講義 2

能

留学生センター・教授 森田 晃一

昨年度初めて、日本事情講義の特別テーマとして「能楽」を企画し、外部の一流講師・専門家に依頼して、本格的な講義と実演を実施したが、好評であったため今年度も行うこととし、講義の方は実演を担当してくださる味方團氏の紹介で、観世流シテ方・河村晴久氏にお願いすることになった。

内容はまず、能の歴史に関する簡潔な話から始まり、次に能の大成者・世阿弥が著した名作「井筒」を事例に、能とはどのような芸能なのか、能ではどのようなテーマを扱うのかなど、基本的ながら興味深い話の数々を聞くことができた。「愛」という普遍的なテーマを、能の様式で表現することの意味を、ビデオを視聴しながら説明していただいたので、留学生たちにも理解が深まったものと思われる。

その他、能面の種類、能舞台の構造、能における身体表現、「謡い」・曲調の特徴など、時折実演も入れて解説をしていただき、話に引き込まれている内に時間が経過してしまう感じであった。



日本事情講義 3

能の実演

留学生センター・教授 森田 晃一



昨年度好評であった「能の実演」を、観世流シテ方・味方團氏の協力で、今年度も実施することができた。昨年度と同様、当日は長良川河畔の石金の舞台を利用し、同じ観世流シテ方・田茂井廣道氏と二人で、①「石橋」の一場面の実演、②声出しの基本としての「謡い」、③能面の話、④能における喜怒哀楽の表現、⑤基本的な動きとしての「摺り足」、⑥能装束の着付けのデモンストレーションという内容で進行した。

学生たちは、まず①での味方氏の「石橋」実演



の迫力に、度肝を抜かれたようで、真剣なまなざしで見つめていた。次の②の田茂井氏指導による「謡い」では、実際に声を出すことにより、その緊張から少し解放されたようで、③④⑤では、ウイットに富んだ巧みな説明に笑

みを浮かべ、「摺り足」の難しさに手こずるなど、和やかな雰囲気に進んだ。⑥の着付けでは、 Lund 大学の アンナさんが、能装束を身にまとい、鬘を付け、面を付け、次第に変身していく姿を、皆、興味深そうに見つめていた。



日本事情講義 4

日本の陶芸

岐阜大学・学長 黒木登志夫



多治見に陶芸の実地見学と実習に行くのに先立って、簡単な陶芸について説明を行った。実習では、ノルウェイ、イタリア、中国、韓国、日本の陶芸（備前、萩、美濃焼き、それに自作作品など）を実際に触れて見てもらい、その違いを実感してもらった。

簡単な陶芸の原理、焼成の温度（素焼き、700～

800度；本焼き，1200～1250度），酸化焼成と還元焼成のときの化学変化と色の変化などを説明した。さらに，縄文式土器から今日のセラミック工学にいたる発展についても話を進めた。最後に，質疑応答の時間を取った。



日本事情講義 5

日本の芸能とスポーツ

～相撲の歴史とルール～

留学生センター・助教授 橋本 慎吾

本年度も相撲見学前に相撲の簡単な歴史とまわしなどのアイテム，ルールと決まり手を講義することとなった。相撲の知名度はかなりのもので，学生達はみな一度は(テレビなどで)観たことがあると言っていたが，今，日本ではヨーロッパ出身の関取(琴歐洲など)が活躍しているので，そのことを聞いてみると，それは知らないとのことだった。サッカーの中田が日本人が思っているほどは海外で知られていないように，日本国内の状況がそのまま海外に広まるにはまだまだというところのようだ。



学生達は派手な投げ技に歓声を上げ，化粧回しの美しさを感じ入っていた。熱心に聞いてくれて感謝している。



日本事情講義 6

日本の伝統 1

～郡上市を事例として～

留学生センター・教授 森田 晃一

例年と同じく，翌日からはじまる「郡上プログラム」(サマースクール期間中に，郡上市の国際友好協会の協力で実施される日本文化研修と



ホームステイ) のため，「日本の伝統 1 - 郡上市を事例として-」と題し，次のような内容で講義した。

- ①岐阜県郡上市について
- ②生活文化とは-茶道を中心に-
- ③祭礼と民衆-郡上踊りの歴史から-

まず，広大な市域を有する郡上市が，岐阜県の真ん中に位置する都市で，市内を清らかな吉田川や小駄良川が流れ，落ち着いた佇まいを見せる城下町であること。次に，代表的な伝統文化である茶道を例に，生活文化について説明した。最後に，毎年夏に郡上で催される郡上踊りが，代表的な盆踊りの一つであり，国の重要無形民俗文化財に指定されていることなどを，それぞれビデオを視聴しながら説明した。



日本事情講義 7

日本の伝統 2

～ 京都について～

留学生センター・講師 土谷 桃子

本講義は、翌日からの京都旅行に備えての講義であった。京都について説明する前に、日本の歴史全体を時代区分、政治権力が貴族から武士に移りその後近代を迎えたこと、学生の知っている日本の歴史上の人物がどの時代の人物か示すこと等を手掛かりに簡略に説明した。次に配付した京都地図を観察し寺社マークと神社マークがあることに気づかせ、仏教と神道という日本の代表的な宗教について言及した。その後、実際に訪問する史跡（上賀茂神社、竜安寺、銀閣寺、清水寺、二条城、嵐山、三十三間堂）それぞれについて、スライドを用いながらその成立や特徴・見どころについて説明を行った。

事前に訪問場所について学習することで、見学時の充実感が増すのではないかと考えたが、それが逆に現場での新鮮な発見の驚きを奪ってしまったというマイナス面の指摘を得た。安易な視覚教材の利用を再考すべきである。日本の歴史の概説については、有する知識の量が学生によって異なり、知識の乏しい学生にとっては駆け足の講義は消化不良になった恐れがある。また、学生からの発言を引き出しながらの講義を心がけたが、発言が当然のことながら知識のある学生に偏ってしまったことも反省点である。来年度に改善を期したい。



今年度のサマースクールでは、留学生センター長による講義も行われました。

日本事情講義 8

心の仕組み

留学生センター・センター長 武脇 義

自分が「こころ」を持っているということは、とても不思議なことです。神経・脳科学が進展した今日さえ、依然として、どのようにして「ヒトのこころ」が生まれてくるのかということは、深いミステリーのままだです。「こころ」を介した、言語・コミュニケーション・異文化、情緒などの脳内メカニズムについて易しく教授し、お互いに想像してみることは興味深いことです。



エクスカーション

陶芸体験

.....
 応用生物科学部・講師
 芳村 了一

6月30日の晴れた日の12時30分、参加学生19名を乗せたバスに引率2名が同乗して、各務原インター、多治見インター経由で多治



見市に向かった。ほかに山田課長が連絡調整のため同行した。学生をA班とB班の2班に分けて、A班は、最初ロクロ体験、次に絵付け体験、B班は最初絵付け体験、次にロクロ体験をした。ロクロ体験は、陶芸機材専門店「ボイスオブセラミックス」で行なった。学生は指導員の指導を受けて、一人、一人電動ロクロに向かって、粘土から湯飲みや茶碗といった作品を作った。絵付け体験は、多治見創造館3階にある「多治見市文化工房ギャラリーヴォイス」で行なった。学生は絵の具と筆とパレットを使って、一人、一人見本の作品に思い思いに絵付けをした。ロクロ体験も、絵付け体験も、学生が興味深くしていたのが印象的だった。なお、ロクロ体験の料金は2000円、絵付け体験の料金は1000円、また、ロクロ体験と絵付け体験で作った作品の完成品を受領するために、山田課長が後日、受け取りに行き行って頂いたとのことである。



大相撲

.....
 応用生物科学部・教授
 阿閉 泰郎

呼び出し「に～し、露鵬、ひが～し、朝青龍」から「待ったなし」で行司の軍配が返るまでの数分。テレビで



大相撲を見ているとこの数分は比較的長く感じられる。しかし実際に目の前で観戦してみると大切な時間であることが理解できる。土俵の上では力士が勝負の気持ちを高めるのはもちろん、土俵の乱れた土を箒できれいに掃く人、塩を補う人、懸賞金の幟を回覧する人、次の取り組みの力士が座る座布団と顔を拭うタオルを運ぶ付け人。さまざまな人達が立会いまでの短時間にてきぱきと一定の仕事を行ない、土俵を盛り上げている。

取り組みの一番一番に一喜一憂するのは観戦者の楽しみである。動きの多い高見盛や土俵の外まで飛び出す取り組みは勝



敗に関わらず、四股名さえ分からない留学生にとっては分かりやすい内容である。上手投げで相手を一回転させたり、徳俵で両足を踏ん張る力士など力が入る勝敗には拳を高々と上げ声援を送る留学生が多い。残り少ない滞在期間の間、日本各地の伝統文化を見てもらいたいのはもちろんだが、一回でも多くテレビ観戦をし、文化としての大相撲を理解してもらえればいい。

郡上

留学生センター・教授
森田 晃一



今年も7月14日(金)から17日(月)まで、郡上市の国際友好協会の全面的な協力のもと、日本文化体験とホームステイをセットにした「郡上プログラム」が実施された。初日の引率は武協留学生センター長、最終日の引率は森田が行った。

スケジュール全般は、ほぼ例年どおりで、到着初日は、防災センターでオリエンテーションを行った後、遊童館に移動して紙細工の講座を体験、昼食後は順に、木造の趣のある旧庁舎記念館で郡上踊りの講座、総合文化センターに移動して書道の講座を体験し、早速日本の伝統文化に触れることとなった。夕方、少し涼しくなったところで古い町並みが残る町内を散策し、日本の「ふるさと」風情を堪能した。夕食後は地元の方々との交流会に出席し、ここでホストファミリーと初めて対面、また学生代表が、スウェーデン・ルンド大学および韓国・ソウル産業大学について紹介した。相生小学校おはやしクラブ・郡上踊り保存会ジュニアクラブ・西和良ジュニア保存会による、可愛らしくも達者な郡上踊りの実演もあり、楽しく和やかな雰囲気の中で交流会が終了した。その後、参加学生たちは、それぞれのホストファミリーとともに4日間を過ごす家へと向かった。

15日は、まず秋葉三尺坊にて座禅を体験、警策で打たれた学生が「突然、殴られて痛かった」と若干閉口気味に話していたが、次に体験した茶道とともに「わび」「さび」の世界に触れたことを貴重な体験と感じたようである。16日は、終日ホストファミリーとともに過ごす日であり、ホストファミリーとの計画に従って自由に行動することになっていたが、学生それぞれ、歴史ある静かな町・村でさまざま

まな交流をしたようである。昨日と同じく、この夜も、郡上踊りが開催されていたので、両日踊りに狂った学生もいたという。

17日は午前10時から、参加学生・国際友好協会・ホストファミリーによる評価会が開催された。例年思うことだが、次々とホストファミリーの車に乗せられて会場入りする学生たちの姿は、すっかりファミリーの一員としてとけ込んだようであり、ホームステイの成功を感じさせてくれる光景でもあった。会の中での学生たちとファミリーたちの4日間の感想を聞き、その詳細が明らかになったのだが、時に涙で詰まってしまったり、時に微笑み交わしたり、会場は和やかな雰囲気になり、今年も最高の思い出をつくることのできたのだ、と実感できた一時であった。

さて、私のもとには、岐阜大学がサマースクールをどのように企画・運営しているのか、日本全国の国立大学から問い合わせが引きも切らないが、岐阜大学サマースクールに魅力があるとすれば、その重要な要因の一つは「郡上プログラム」にあると考えられる。郡上市、国際友好協会の皆様に深く感謝するとともに、今後とも相変わらぬ交流を続けて行ければと、切にお願いする次第である。



京都研修旅行

.....
 教育学部・助教授 原田 信之
 地域科学部・助教授 三谷 晋

7月20 - 21日の2日間、引率者3名とルンド大学からの学生13名、ソウル産業大学からの学生5名で京都研修旅行に向かった。上賀茂神社を見学してから嵐山で京風料理の昼食をとった後、竜安寺の石庭、銀閣寺、清水寺を見学した。全国的には水害に見舞われたほどの梅雨時であったが、京都は小雨程度でむしろ程心地よいくらいの気温であった。参加者間の交流は活発で、両大学の学生が日本語でわきあいあいとコミュニケーションを交わしていた。夕食後、祇園コーナーで古典芸能を鑑賞して1日目のプログラムは終了した。

2日目も小雨降るなかでの京都散策であった。二条城、三十三間堂、嵐山と見学したが、自国の建造物とは違った美しさに参加者はこころうたれていたようである。行動が午前中であり、雨が降っていたためか他の観光客はそれほど多くなく、気持ちのよい散策となった。昼食は京風料理を食し、そのあと八つ橋をみなで作った。上出来あり不出来ありが話のネタになっていた。

改善すべきことはあるが、2日間という短い期間を考えるとそれなりに楽しめたのではないかと思う。



国際理解教育

留学生センター・講師 宮谷 敦美

今年の国際理解授業は、6月21日と7月12日の2回行い、岐阜大学の日本人学生とサマースクールの参加学生がディスカッションするという方式にしました。1回目は、写真を見ながらのディスカッション。「名古屋駅前のクリスマスツリー」と「バレンタインデーのチョコレート商戦」の写真を見ながら、これらの行事で何をする習慣があるかについて、話し合ってもらいました。そして、あることがらが独自の解釈などにより異なる習慣に変化していくことを実感してもらいました。そのあと、日本社会のさまざまな場面の写真を見ながら、留学生の目から見た「日本らしさ」と、日本人の考える「日本らしさ」についてディスカッションを行い、最後にシェアリングをしました。このディスカッションによって、自分自身が知らないうちに形成してしまっている「ステレオタイプ」と、複数の視点からのもの

ごとを見る面白さを体験できたのではないかと思います。

2回目のテーマは「環境を考える」というテーマで、工学部の若井研究室の学生が自主的にプログラムを作成してくれました。日本人学生の短いプレゼンテーションの後、「温暖化」と「リサイクル」というトピックでグループディスカッションをしました。少し難しい言葉もあるので、留学生には、漢字にふりがなをつけた資料を事前に配布しました。ディスカッションを通して、国によってリサイクルの方法が異なっていることがわかり、シェアリングの時間は大いに盛り上がりました。使える言語に制限はあったものの、身近な話題から外国語で考えるきっかけになったのではないかと思います。若井先生をはじめ、2回目のコーディネートを担当してくれた加納大さんにも感謝いたします。



「環境に関する意見交流会」感想

国際理解授業に参加した工学部若井研究室の学生から、次のような感想文が寄せられました。

M 2 加納 大

先日の意見交流会は素晴らしいものになったと思います。参加してくださった方々から活発に意見が飛び交い、基本的な考え方が違うところ、そして共通意識をもっているところなどいろいろなことが勉強になりました。

個人レベルでこのような交流を深めていくことが最終的には日本とトルコの関係のように国同士を仲良くすることになるのかな？と感じています。「いい花づくりはいい土づくりから」このような交流をこれからも続けて、お互いがお互いの考え方や文化の違いを受け入れる器づくりをしていけたらいいなと思っています。

M 2 長江 唯之

今までに、英語を使って外国の方と議論する場に参加した事はあったのですが、日本語を使って議論する場に参加したのは今回が初めてでしたので、普段とは一味違った経験ができました。特に印象的だったのは、外国の方は自国にある原発の数を瞬時に答えられたことでした。日本人はほとんどが原発の数を答えられないでしょう。外国の方のエネルギー問題に対する意識の高さに驚きました。さらに、国による環境意識の違いを知ることができ、非常に勉強になりました。

M 2 中江 賢治

環境に関する意見交流会でしたが、とても活発に意見を交流する事ができ非常に有意義であった。外国の環境に対する取り組みについてあまり詳しく知る機会がなかったので個人的にもなかなか興味深い意見がたくさんあり勉強になった。日本語が難しく理解しにくいところもありましたが片言の英語を交えつつ辛抱強く説明すると分かっ

てもらえたのでこちらとしても相手としても良かったのではないかなと思います。国が違えば文化も違うので驚く事が多かった1日でした。

B 4 荒巻 敦志

普段は違う国の人と議論する機会があまりないので、今回のような意見交換会に参加できてとてもいい経験ができたと思います。また、今まで知らなかったようなことも議論する中いろいろできて勉強になりました。

B 4 加藤 侑

違う国の人とそれぞれの国の環境意識についてディスカッションできたのは、めったにない機会なので参加出来たことをうれしく思います。日本語を上手に喋れる人もいたし、もちろんまだあまりよく話せない人もいたので、英語を交えながら和気藹々と話しました。また、互いの国のごみ捨ての習慣に驚いたり、普段の生活の違いを聞いて楽しくなったりしました。この経験がサマースクールで岐阜大学に来てくれた人たちにも、よいものになったらと思います。

B 4 神谷 吉恭

違う国の人とコミュニケーションをとるということは、普段する機会もあまりなく、自分にとってよい経験ができたと思います。議論することで他の国の環境問題に対する取り組み方の違いや類似点を知ることができ、とても参考になりました。確かに、言葉がうまく通じないことなどがあり、お互いに理解しづらいこともありましたが、時間をかければ理解し合えると思います。このような機会は新しい発見ができ、とてもよかったと思います。

B 4 服部 中庸

私には、このような外国人の方との本格的なディスカッションの経験が、今までなかったので大変いい勉強となりました。最初こそ緊張と不安がありましたが、話をしていくうちにコミュニケーションをとることの楽しさを感じることができました。加えて、自分自身の語学力不足を痛感し、これからは自分からこういった機会に飛び込んでいきたいと思える良いキッカケになりました。

環境についての取り組み方は各国少しずつ違うものの、一人一人が意識を持って地球環境を維持・改善していこうという気持ちを持っていることは国が違って変わらないという、あたりまえですが大切なことを肌で感じる事ができました。これから社会に出て行く私達が、こういった話し合いをすることは、とても有意義で重要なことだと思います。本当にいい体験となりました。

B 4 前田 一樹

今回の交流は、私にとって久しぶりに外国人の方と話す場であり、さらに自分達だけで議題を討論するというとても有意義な体験が出来たと思う。今回の意見交流会は環境に対する取り組みということで、各国の環境に対する姿勢が理解でき、やはり日本人の環境に対する意識が他国に比べて薄いということも分かった。また機会があったら、是非積極的に参加したいと思う。

B 4 山田 直彦

今回は環境に関しての交流会ということで、普段から環境を意識している僕にとってはとても楽しみな交流会でした。言葉に関して心配で、なかなか意思疎通できなかった所もありましたが、簡単な内容は話せたのである程度は理解しあえたと思います。交流会が終わって少し心残りなのがレジ袋についてで、最近日本では有料化が進められています。スウェーデンではどうですか？と聞いてみたかったです。



岐大生との交流プログラム ~ WELCOME ようこそ日本へ ~

応用生物科学部生産環境科学課程2年 井原小百合

7月8日、岐大生との交流プログラムとして、ソウル産業大学からの留学生のウェルカムパーティを開いた。メンバーは、主役のソウル産大の学生、ルンド大学生、チューター、そして、チューターの友達や先生方だ。

チューターは、おもてなしとして、たくさんの料理を作った。メニューは、ちらし寿司、ポテトサラダ、そうめん、てんぷら(みんなすぐくハマってました!)、たこ焼き、お好み焼き、そしてデザートはみたらし団子、かき氷だった。前日の夜中から準備して、当日は、朝から手伝えるチューターはフル稼働だった。時間に間に合わなくて、先生方にも手伝っていただいた。ありがとうございました。がんばった甲斐あって、サマスク生はおいしいと言って、どんどん食べてくれた。(そのおかげでチューターズはほとんど食べられなかったが・・・笑)

おいしい食事の後は楽しいゲーム大会の時間だ。まず始めは『ジェスチャーゲーム』だ。ホワイトボードに書かれたお題を動きだけで表現し、それを仲間当ててもらおうという内容だ。大半は普通のお題だが、少しだけ恥ずかしいお題も混ぜてみたところ、みんな顔を赤らめながらジェスチャーして、とつてもかわかった!!次は『絵心クイズ』だ。みんな

の中から5、6人選んでお題の絵をスケッチブックに描いてもらい、その絵を会場の人みんなに見せるといふ、何とも恥ずかしいゲームだ。普段よく目にするものを、いざ描け、と言われるとなかなか難しいもので、みんな絵心なんか無視して、自由な発想で描いていた(笑)。出来上がった絵は、ピカソもびっくりするぐらいの衝撃作品の連発で、後世に語り継がれることになるだろう。

パーティも一段落すると、みんなそれぞれ、おしゃべりしたりしていた。ソウル産大の学生は、みんなとすぐに仲良くなれたようで、友達の輪ができていた。サマスク生とチューターが日本語で会話するのは当たり前だが、韓国とスウェーデンの子が日本語で会話していたのは印象的だった。ソウル産大の学生は、日本のTVに詳しくて、芸能人や、歌手、ドラマなどの話で盛り上がった。私よりも詳しいので、「何でそんなに知ってるの?」と聞くと、「インターネットで観た」と教えてくれた。日本に対して、積極的に興味を持ってきていることを知って、とてもうれしかった。

みんな楽しんでくれたようで、このパーティは大成功だった!!! (^▽^) v



夏期短期留学参加生名簿

No.	氏名	性別	大学
1	ペーター・アスケロー Peter Askelof	男	ルンド大学
2	シモン・ベリ Simon Berg	男	ルンド大学
3	カール・ベルンストール Karl Bernstal	男	ルンド大学
4	オッレ・エドルンド Olle Edlund	男	ルンド大学
5	ビョルン・フレドベリ Bjorn Fredberg	男	ルンド大学
6	アンナ・フェンゲ Anna Fange	女	ルンド大学
7	エレン・ハッलगレン Ellen Hallgren	女	ルンド大学
8	ダヴィド・ハーネスク David Harnesk	男	ルンド大学
9	ダーヴィッド・ヘッドベリ David Hedberg	男	ルンド大学

No.	氏名	性別	大学
10	インゲラ・ヘッलगレーン Ingela Hellgren	女	ルンド大学
11	ヨナス・リデン Jonas Liden	男	ルンド大学
12	フィリップ・ニルソン Filip Nilsson	男	ルンド大学
13	ローゲル・ロン Roger Ronn	男	ルンド大学
14	ピョン ヨンギョン 卞 榮均	男	ソウル産業大学
15	ハン クァンヒ 韓 官熙	男	ソウル産業大学
16	キム ジソン 金 志宣	女	ソウル産業大学
17	イ エヨン 李 愛榮	女	ソウル産業大学
18	オ ウンジン 吳 恩珍	女	ソウル産業大学

郡上から

7月14日から17日まで、郡上市でエクスカーションとホームステイを行いました(p12参照)。現地でお世話になったホストファミリーの皆さんが感想を送っていただきました。

筒井法子さん(郡上市和良町)

今年初めてホームステイを受けさせて頂きました。どんな子が来るのかな、何を食べてもらったらいいかな、会話は大丈夫かな、楽しんでもらえるかな、家の大掃除をしなければ・・・。

私の不安やら、ドタバタ準備をしている中で、3人の子ども達は「早く来ないかな」、「楽しみだなあ」と指折り数えて、7月14日を待っていました。一緒に川遊びしたい、ゲームしたい、花火したい。3日間どこへ行くか、何をするか子ども達3人で計画表を作り、待ちきれないといった様子でした。

そして迎えた当日。初めて見るスウェーデンの子ども達。我が家に来る子どもはシモン、20歳の男の子。紹介される前に家族で必死にネームプレートの名を探して右往左往、緊張し対面、優しい目をした男の子。

最初は照れくささもあってか、子ども達も会話が出来ないようで後ずさり。「日本の食事は何が好き?」、「ご家族は?」私は質問ばかりしていたような気がします。でも一人息子が増えた3日間の生活はとても楽しいものでした。心配していた食事も、手巻き寿司でおさしみ挑戦、お箸も上手に使えるし、会話も日本語もバッチリ。子ども達も朝から寝るまでシモンにくっついて遊んでいました。

夜は郡上踊りへ浴衣を着せ、ゲタをはかせ、「足大丈夫?」と何度も聞いたのに全然大丈夫。友達と2時間踊りっぱなし。楽しそうに踊っている顔を見て、私まで嬉しくなりホームステイ来てくれてよかったなあと、しみじみ思いました。

日本を楽しんで、来て良かったなあとってくれたらと思い、お城、温泉他いろいろ出かけました。夜は日本の昔遊び、ゆっくりしてもらうどころか、3日間はとても忙しい時間になってしまった気がします。シモンはいつもにこにこ笑っていましたが、ちょっと疲れ気味にさせたかなと反省。

でも私たち家族にとって、とてもよい経験だったし、いい思い出をたくさんもらいました。本当によい出会いに感謝です。帰ってしまっ、とても寂しくてなんだか物足りない日々になってしまいました。又ぜひ機会があったら、ホームステイを受けた

と思います。楽しい3日間でした。ありがとうございました。

野口明子さん(郡上市白鳥町)

サマースクールホストファミリーが終わり、息子がこんな日記を書いていました。

「今日、かん国からホームステイに来た、キム・ジソンさんにかん国語を教えてくださいました。教えてもらったことは、『ごちそうさま』と『いただきます』です。いただきますは、『チャル・モックゲッスムニダ』で、ごちそうさまは、『チャル・モックゲッスムニダ』です。お母さんはおぼえにくかったと思いました。でも、ぼくは、おぼえやすかったです。かぼちゃは、ホバック。なすは、ガジ。さつまいもは、ゴグマ。ピーマンはピマンです。よる、10時ごろに、いっしょに花火をしました。また教えてもらいたいので、今度も来てほしいです。」

そして10日ほど後に、私たち家族は、全てのプログラムを終えたジソンさんたちのフェアウェルパーティーに参加させてもらいました。岐阜大学内でのパーティーから帰ってきて、私の心は、何故か八幡でのお別れのさみしさよりも、ほかほかとうれしい気分がいっぱいでした。うかんでくるのは、サマースクールの学生さんたちの、ひとつの課程を終えて満足しているうれしそうな顔と、それよりももっと忘れられないのは、サマースクールの学生さん達のサポートをしていたという岐阜大学の学生さんたちの笑顔と歌声でした。

みなさんのいい笑顔と歌を聴きながら、感じたことがありました。それは、同じ日本人でも理解することが難しかったりする中で、言葉や歴史や文化が違って、人と人が理解し合おうとすることが、こんなにさわやかで、すがすがしいものだという事でした。歌っている表情をみているだけで、私まで羨ましくなるほどでした。

ホストファミリーとして、ほんの少し参加させてもらった私たち家族が、こんないい気分をおすそわけしていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

私と息子たちの今の旬のうたは、もちろんスピッツの「チェリー」！！です。

ジソンさん、みなさんどうもありがとうございます。そしてまたいつかお会いしたいです。

羽山千尋さん(郡上市八幡町)

今回は、二度目の受け入れをさせて頂きました。二度目と言う事だったけど、何もかもが新鮮で楽しい日々を送る事ができました。初日はお互い緊張していたせいか、一言一言を受け入れるだけでしたが、二日目は私の友達を誘ってバーベキューをしました。友達にもオッレを紹介する事ができ、また彼がいてくれたおかげで私達は草笛の鳴らし方や、文化や環境の違いを知る事ができました。この日は、郡上おどりの発祥祭という事もあって、祖母・姉・友達・オッレと私の5人で郡上おどりに行きました。初めの方は、戸惑いながらも形だけでしたが、知らないおじさんが、オッレに踊り方や郡上おどりの由来を説明していました。私の友達にしても、おじさんにしても、一つ一つの行動が、彼にとって人の温かさを感じる事ができたと思います。

それだけでなく、彼自身何事にも挑戦しようとする意欲が見られたので、皆が自然にそのような手助けをしたり、声を掛ける事ができたのだと思います。

3泊4日はあっという間でしたが、私達家族も素晴らしい体験をさせて頂き、ありがとうございました。

細川清光さん(郡上市明宝)

二十年来、古代史と薬草に関心があり、その為韓国はさけて通れない国として重要視していました。また最近独学ですが、韓国語の勉強を始めていました。そんな折、今回のホストファミリーの事を知りました。私の家には、呉恩珍というソウル産業大学2年生の娘さんが来ました。私は彼女を「ウンジン」、家族の者はウンジンさん、高校3年生の娘は「オンニ」と呼ぶことにしました。ウンジンは、素直でまじめな勉強家のように見受けられましたが、日がたつにつれ、明るくて、くったくのない19歳の顔を見せるようになりました。ウンジンは、よく「大丈夫です」と笑顔でこたえてくれました。—韓国社会で多用されるケンチャナヨ「大丈夫です」という言葉は、論文が書けるくらい意味が深いらしい。そんなウンジンを見て、どのように応援すれば実り大きな留学になるのかと考えましたが、聞きたいことを聞き、話したいことを話し、一緒に居る時間を

大切にするのが一番かと思ひ到りました。3泊4日と、私達には短い日程のホストファミリー体験でしたが、得るものは多くありました。近くて遠い国と言われたりもした韓国ですが、そんなことは決してなく、やはり近い国です。そして大切な隣国です。書物などで得る知識よりはるかに密度の濃いものを得ることができました。家に来てくれた呉恩珍さんと、関係者の皆様に感謝いたします。

松井秀子さん(郡上市美並町)

「ビョルンはスウェーデンで“くま”という意味です。くまと呼んで下さい。」

なる程、だから書道の体験講座の色紙に“熊”と一文字書いたのかと納得したものの、熊と呼ぶには似ても似つかぬ色白でスマート、ハンサムでお洒落なこと、とても熊さんとは声に出ません。おまけにパソコン持参でスウェーデンでの暮らしぶりを見せてくれて頭も良さそう。自慢の彼女もビューティフル、いつも笑顔で話しかけて早く打ちとけようと気づかひもしてくれる熊さんなのでした。

我家は話題に乏しい、どちらかというと無口な家族の方なので、退屈をさせてはいけないからと、せめて郡上のめずらしい所や食べ物を味わってもらえたらと思いました。

梅干、納豆、のり、らっきょう、みそ汁、朴葉ずしの香りもわかってもらえたようです。

みたらしだんごに五平餅、足湯につかって鮎の塩焼きを食べ、長良川に竿をさすつり人を思い、文楽を観て感激。

浴衣、ゲタの着こなしも良く、日本男児より男らしく

「男前でしょう」

と得意気な口ぶりで郡上おどりの輪の中へ入って行き、雨が降り出し、袖がしぼれる程ずぶぬれになっても、平気で踊り続けるのでした。

そういう所は、まだ若い熊さんなのでしょう。

よほど楽しかったのだと思い、郡上おどりのすばらしさをこちらであらためて見直す一面でもありました。

翌朝は、さすがに体力に自信のある熊さんでも、昨日の座禅とお茶の講座での足のしびれと踊り疲れて朝寝坊。

近くの温泉に行き、露天風呂でゆったりのおんびりつかってリフレッシュ。

すっきりしたところでバーベキュー。満腹になっ

た熊さんはアルコールのせいもあり、ソファに腰かけてウトウトした寝です。

「“パチリ”」と写真に収めてみました。

うなぎも大好きと聞いていたので、夜は関まで出かけて行きました。

人気店だけに相変わらずの混みっぷり、忍耐も味わった次第です。

スウェーデンの熊さんが来てくれたおかげで私達もいっしょに楽しめ、郡上おどりの良い所をみつめなおす事ができました。

あっという間の4日間だった気がします。

熊さん、今度郡上へ来る時は小熊ちゃんもいっしょだと良いですね。

山下良枝さん(郡上市明宝)

前から受けてみたいと思っていたホストファミリー、今回初めて受け、本当に良い経験をさせていただいたと思っています。

我が家には、スウェーデンのカールという青年が来てくれ、3泊4日(ほぼ2日弱)というとても短い時間でしたが、とても楽しく過ごすことができました。カールは、魚は食べれましたがベジタリアンということだったので、料理のさほど得意でない私にとって、肉なしの料理で何を作ろうと心配しましたが、いつもおいしいと言って食べてくれました。

土曜日の午後は、いっしょにホストファミリーを受けられた原さんのお家でフィリップと一緒に過ごさせていただき、夕食もごちそうになりました。ゆかたがほしいと言うので、昼間買いに行き(下駄まで買って)それを原さんに着せていただき、皆で郡上おどり発祥祭へ行きました。覚えての郡上おどりを、とても楽しそうに踊るカールの姿がとても印象に残っています。

日曜日には、大滝鍾乳洞、阿弥陀ヶ滝と流しそうめん、大和温泉へ行きました。流しそうめんは、我が家も初めての経験で子どもも大喜びでしたが、カールもとても喜び、いっしょに食べ、いっしょに写真を写していました。夜は、お好み焼きとたこ焼きを食べ、子供達とトランプしたり、ご近所の方と花火をして「カールカール」と話しかけられたりと、すっかり家族の一員のような感じでした。

カールが帰る日、評価会では、どのファミリーの方からも留学生の方からも、それぞれ楽しかった様子を聞くことができました。いろんな過ごし方の中で、それぞれが楽しい思い出になり、どちらのお宅

でも貴重な体験をお互いがされたことがよくわかりました。

いよいよお別れです。バスに乗る前、カールは私達4人を一緒に抱きしめてくれ、とてもうれしく思いました。バスが出た後、涙がこみあげ、子供達も目を潤ませて、真ん中の娘は号泣でした。お客さんが来て帰られても涙が出てくることはありませんが、カールは短い間でしたが、家族の一員として過ごしたから、こんな涙が出てきたのかなと思いました。

カールは、だいたいの日本語は話すことができたので、基本的なことに困ることはありませんでしたが、スウェーデン語は無理にしても、もう少し英語力が私にあればもっとたくさん会話ができたと思うと残念です。でも子供達とまた勉強して、力をつけたいと思います。そして、あこがれの北欧をいつの日か訪れ、カールに会えるといいなと思います。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

和田美和子さん(郡上市八幡町)

岐阜大学サマースクールの留学生を受け入れて、今年で5度目です。私も若い頃一度は海外で生活してみたいという思いを抱いておりましたが、その夢は叶いませんでした。過去形にするのはまだ早い、と思いたいところですが・・・。

行くことが出来なければ、来てもらって異国へ行った気分を味わおうと、優柔不断な気持ちで受け入れていました。ずっとスウェーデンの方でしたが、今回はお隣の国韓国の男の子2人で、息子と同年代の子でした。私の家では、特に何もしてやれませんが、郡上八幡の自然と人々の温かさに感激してくれていたみたいで、3泊4日のステイが終わった翌週に再度八幡を訪れてくれました。もちろん迎えに行っても泊まったわけですが、その1泊2日に私のまわりの友人達もとても温かく彼らを迎えてくれ、親切に接してくれました。本当に改めて人の良さを感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。

岐阜大学とは縁がないものと思っていましたが、留学生を通してお邪魔するようになり、今では息子の行っていた大学よりも足を運んでいます。

そして別れの時はいつも目頭が熱くなりますが、今年は3度涙を流しました。それは、2人は郡上八幡を「第二の故郷」と、こんな私を慕ってくれたから・・・。来年卒業ということですが、来年も再来年もずっとこの町を訪れてくれることを願っています。

宿舎チューター

サマースクールチューターを終えて

農学部4年 玉置 健二

今年もサマースクールのチューターをやらせていただきました。今回は自分にとって最後の年であるとともに、リーダー、そして常駐チューターとしてチューターをやらせていただきました。常駐チューターとして毎日サマスク生と接したことは、自分にとって大きな経験となったし、何よりも楽しませてもらいました。一緒に卓球をしたり、テレビゲームをしたり、お酒を飲んだり、人間ピラミッドを作ったり、バーベキューをしたり、銭湯へ行ったりしました。自分の中でサマースクールといえば、毎年次から次へといろいろな問題が出てくるものでしたが、今年は特に大きな問題もなかったと思います。何よりサマスク生がチューターに非常に協力的で大変チューターをしやすかったのが今年のサマースクールの特徴だと思います。

7月の終わりのテスト週間と同時にサマースクールが終わり、サマスク生が故郷に帰っていくときに毎年考えることは、この出会いはここで終わりじゃなく、これからもきっと続いていくものだという事です。もしかしたらもう二度と会えない人もいる



かもしれない。しかし、だからといってそれが終わりではないのだと思います。この2ヶ月間を一緒に過ごし、多くのことを一緒に経験した仲間達だからこそ、この出会いはこれからも続いていくのだと思います。これは、サマスク生だけでなく、留学生センターのスタッフの方や他のチューターに対しても言えることです。サマスクを通じて多くの日本人とも知り合うことができ、そのすべての人との出会いがあってこそこのサマースクールだと思います。

自分がこうして毎年チューターを楽しめたのも留学生センターのスタッフの方や先生方、学外研の管理人の西川さん、そして他のチューター達のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。サマースクールを通じていろいろな人と出会い、多くの経験を通じて自分を成長させてくれた、この岐阜大学サマースクールには本当に大きな感謝をしています。ありがとうございました。これからもこのサマースクールがサマスク生はもちろん、チューターをやる岐大生にとってもかけがえのないものになると信じています。



今の自分の気持ちをよく表している歌を今年の後輩チューターが教えてくれました。

<チェリー>

君を忘れない 曲がりくねった道を行く
 生まれたての太陽と 夢をわたる黄色い砂
 二度と戻れない くすぐりあって転げた日

きっと 想像した以上に 騒がしい未来が
 僕を待ってる 「愛してる」の響きだけで
 強くなれる気がしたよ いつかまたこの場所で
 君とめぐり会いたい

ありがとうございました。

チューターでの経験

工学部1年 三矢 雅之

私は正直最初留学にも留学生にもあまり興味がなかった。チューターをやると決めたのも暇だったし、楽しいと聞いたからで、なんとなく決めたという感じだった。でもこの2ヶ月通して一緒に遊んだり、パーティーしたり、ご飯食べたり、女装したり。いろんなことをしていくうちにあっという間に過ぎてしまった。本当に楽しかった。そして留学に興味がなかった私に、韓国やスウェーデンにいきたいと思わせてくれた。

この2ヶ月間で3ヶ国のさまざまな人たちが触れ合うことで、文化や考え方、食べ物など、さまざまな違いを肌で感じた。まだまだ世界にはたくさんの国があり、たくさんの文化がある。全部とはいかないまでも多くの国を見てみたいと思った。

今回サマースクール生は日本に来て、日本語でコミュニケーションをとっていたわけだが、今度はぜひ私が彼らの国に行き、彼らの言葉でコミュニケーションをとりたい。



チューターとしての2ヶ月

応用生物科学部2年 渡邊 祐佳

学外研に行けばみんなが「お帰り」と言って迎えてくれます。私にとって学外研は家のような存在であり、みんなといるだけで幸せを感じることができる場所です。チューターを経験しなければ、勉強をするだけで過ぎていたであろう2ヶ月。その2ヶ月間は、チューターという経験を通して私にいろいろな思い出をくれました。

私は、サマースクール生と話す中で気付いたことがあります。それは、私と彼らの感じ方の違いです。例えば、授業の中で先生が観光に行く目的地の説明をして下さいます。日本人の私たちは、ただ「有り難い」と感じるのではないのでしょうか？しかし、彼らは「事前に、写真を見たり説明を聞いたりしたくなかった。実際に自分の目で見て、その場で説明して欲しかった。」と話してくれました。先生は親切と思いついて下さったのですが、彼らは先生の思うようには受け取らなかったのです。私は、思ってもみなかった彼らの考えに驚きました。

しかし、感じ方は違っても、Farewell Partyで彼らがスピーチしてくれたように、“国籍が違って

も仲良くなれる”のです。みんなはたくさんの喜びをくれました。一緒にPartyをし、花火をし、銭湯へ行き、同じ時間を過ごす。この全ての時間が私にとっては楽しく、大切な思い出となりました。こんなに幸せを感じさせてくれた2ヶ月は、他ではなかなか味わうことができるものではありません。

私は、そんな素敵な2ヶ月をくれた素敵な仲間のみみんなが大好きです。スウェーデン人13人、韓国人5人、チューター10人の計28人。このみんながいたからこそ、こんなにも楽しくていつまでも続いて欲しいと心から思うときを過ごせました。

私はこの2ヶ月間で、「ありがとう」「大好き」という言葉を何度も何度も口にしました。また、何度も何度もハグをしました。これらは上辺だけでなく、本当に心からの思いがあつてのことです。こんなにも短い期間で、こんなにもみんなと仲良くなれたこと、本当に感謝します。

このサマースクールに携わって下さったみなさん、本当にありがとうございました。



宿舎チューター名簿

No.	氏名	大学
1	玉置健二	農学部生物生産システム学科 4年
2	杉山真央	応用生物科学部食品生命科学課程 3年
3	渡邊祐佳	応用生物科学部獣医学課程 2年
4	井原小百合	応用生物科学部生産環境科学課程 2年
5	田中亜依	応用生物科学部生産環境科学課程 2年

No.	氏名	大学
6	横田吉弘	農学部生物資源利用学科 4年
7	太田沙織	応用生物科学部食品生命科学課程 2年
8	中島のぞみ	応用生物科学部獣医学課程 1年
9	加藤友崇	応用生物科学部生産環境科学課程 2年
10	三矢雅之	工学部社会基盤工学科 1年

私の心に残るこの一枚

～サマースクール参加学生が見た日本～

サマースクールに参加した学生たちが書いた作文をご紹介します。彼らが「これが日本だ」と感じたものを写真に撮り、その説明をしています。彼らが体験した「日本」を彼ら自身の言葉で表現しています。留学生ならではの小さな日本文化論としてお読みください。



ホームステイの写真

ペーター・アスケロー



私の心に残る一枚

シモン・ペーリ



これは郡上八幡のホストファミリーの子供たちの写真だ。ホームステイをした時、ホストファミリーの家でこの写真を撮った。私とローゲルは子供たちに紙ひこうきを買ってあげた。そのひこうきもこの写真に出ている。子供たちと1日中あそんで、特にその一番小さい男の子はいつも元気でたのしかった。だから、この写真がいんしょうてきなのだ。

この写真を友だちに見せた時、友だちは「おもしろそうな子どもたちだね。ペーターはぜったいしょうらい、いいお父さんになるよ。特にその一番小さい男の子は元気そうだよ」と言っていた。

日本にいた間の一番おもしろかった経験はたぶんこれだったと思う。子供たちとあそんだことはもうなつかしい。いつかもう一回そのかぞくの家にとまりたい。

私の心に残る一枚は長良川の近くにあるばいりんこうえんでとった写真だ。

この写真は6月6日にとった。その時2日前に日本にきたばかりだった。そして前の日に岐阜にきたから、まだ町のことをあまり知らなかった。だからその日には色々なことを調べに行った。

まず、岐阜駅のほうに行ったけど何も特におもしろいことを見つけられなかった。ところが、りょうに帰る時がつき屋を見つけて、そこでウクレレを安く買った。

その後ばいりんこうえんに行って、ゆっくり歩こうと思った。けれども、こうえんといっても本当は山だった。

やっと何かがつきをひけるようになったから、この写真は私にとっていんしょうてきだ。

そして、この写真の一番見てほしい部分は上の木でひっかかったかばんだ。だれのかばんかぜんぜんわからないから、おもしろくて、ふしぎだと思う。

この写真を友だちに見せて、その人は「あのかばんはふしぎだなあ」と言った。

もちろんこれはいい経験だ。





ホストファミリーと
一緒に踊った踊り

カール・ベルンストル



郡上のホームステイの間に私はたくさんいい経験をしましたが、一番いい経験はホストファミリーに会ったことです。家族に会う前、私はたくさん心配しました。「もし、家族が親切じゃなかったら、どうする?」と考えました。でも、かんげいこうりゅうかいで、自己紹介の後、家族に会いました。それから、安心しました。会った家族の中で、この家族が一番親切です。

ホームステイの土曜日に郡上踊りがはじまりました。そして、ホストファミリーのお母さんは私がゆかたを買うのを手伝ってくれました。

そして、踊りへ行って、踊りました。踊っている時、この写真をとりました。郡上の広場で人々はたくさんいて、みんな踊ったり、歌ったりしました。とてもすごい感じでした。

その上、私はちょっとびっくりしましたが郡上踊りのめんきょじょうをもらいました。もちろん、それはとてもうれしかったです。

外人として、ゆかたを着たら、私はとても変みたいだから、見た時友達はちょっと笑いました。でも、写真で見ると私は幸せで嬉しそうで親密さが見えると思います。だから、この写真は私の心に残っています。



私の心にのこる
この一枚

オッレ・エドルド

ぎふサマースクールの間が一番大切なけいけんはホームステイだ。ホストファミリーのみなさんといっしょにこの写真をとった。これはぐじょうおどりをおどった後でとった写真だ。

この写真えらんだ理由はうれしそうな写真だと思うからだ。

写真を友だちに見せた。彼は「なかがよさそうだ」と言った。私もそうだと思う。

ホームステイは三日間だった。その時、ホストファミリーといろいろなことをして、たいへんお世話になった。そしてホストファミリーとよく知り合いになった。だから本当にいいけいけんだった。

写真を見ると、そのしたしい感じが見えると思う。



私の心に残る
この一枚

ビョルン・フレドベリ

昔、私は家族といっしょにスウェーデンにある色々な山に登りました。だから、日本に来て、山に登ってみたかったです。挑戦することが好きだから、岐阜城に歩いて登ったことは富士山に登ることのいい準備でした。

この写真は岐阜城に登った時にとりました。ヨナスとフィリップとインゲラといっしょに登りました。

友達に写真を見せた時、みたさんが「大変そうだ。」と言いました。それで、ダヴィドは「素敵な景色だ。」と言って、オッレは「アァ！ジャングルだったね！」と言って、カールは「すごく勇敢で、登ることで強かったね！」と言いました。



岐阜城に登ったことは絶対にいい経験でした。景色は本当にきれいで、岐阜が遠くに見られました。



ぎふのしぜん

アンナ・フェンゲ

ぎふにいる間に私の心にのこることはぎふのしぜんです。ぎふのしぜんを考えると、きれいなけしきと野生動物が目にかびます。だから、私は写真を二枚えらびました。



一番目にえらんだ写真はぎふ大学のそばにある川でおよいでいるヌートリアの写真です。ぎふ大学からりょうにもどると、私は毎日ぎふ大学のそばにある川のはしをおうだんしなければなりません。それで、はしをおうだんした時、私はその日、川で小さいうごいているてんに気がつきました。かめだと思ったから、自転車を止めました。でも、もう一度を見てから、かめじゃないと気がつきました。かわうそだと思いました。カメラを早く出して、写真をとりました。

後で先生にかわうそを見たことを言いましたが、先生はかわうそじゃないと言いました。かわうそはとてもめづらしくて、ぎふにいないそうです。それで、本当はヌートリアでした。

二番目にえらんだ写真は、ぎふにいる時のりょうからとった写真です。写真は日本の建物とみど

りの山を見せています。ふつうのくもりの日にこの写真をとりました。とてもきれいだと思います。



スウェーデンの町と比べて、ぎふは少し大きいです。でも、大きくても、きれいなけしきもあるし、野生動物もいます。だからぎふのしぜんはすごいと思います。この写真がぎふのそうぞう上のしぜんを見せていると思ったので、えらびました。

友だちにヌートリアの写真を見せたら、友だちは「ぎふにかわうそがいるの？そうじゃない？ヌートリアもすごいね！」と言いました。そして、建物とみどりの山の写真を見せたら、友だちは「きれいだね！」と言いました。私は友だちとだいたい同じ気持ちだということがわかりました。

ぎふのしぜんはすごいので、ぎふに来て、よかったです。とてもいい経験になったと思います。



ぐじょう八まんの 思いで

エレン・ハッलगレン

ぐじょう八まんに着いた時とてもきれいな町でしぜんがいっぱいでスウェーデンみたいな感じだと思いました。町の中で川と小川がどこでもあるからリラックスできました。この町でみなさんといっしょにさん歩しました。

晩ご飯を食べた後、ホストファミリーに会う時私はとても心配できんちょうしました。「家族はどんな人」と考えました。でも初めて家に行く時一番若いむすめと話しました。とてもおもしろかったから、みじかい間車に乗っていたと思ったけれども本当は三十分以上車に乗っていました。



家族のむすめと色々な楽しいことをしました。しょうにゆうどうやおんせんに行ったり川の中で歩いたりしました。家族はとてもやさしかったです。たとえば私は新聞かCDが買いたい時売っている店へ連れて行ってくれました。そしてご飯を全部食べられない時「残してもいい」と言ってくれました。

ホームステイのいい思い出が忘れられません。そしてきかいがあったら絶対にもう一度ぐじょう八まんへもどります。



地獄のような暑さ

ダヴィッド・ハーネスク

この写真をよく見てください。最初に気づく事は温度計に書いてある数字だろう。私はスウェーデンの北から来たので、37度は信じられない暑さだと思っていたが、今ほんものを経験したので信じられる。



私はスウェーデンの北から来たのでさむい日にはなれていて、蚊の事もあまり気にしていなかった。暑い日をあまり経験しなかったので、日本に来た時私はびっくりした。

スウェーデンの暑さは岐阜と違う。もちろん、スウェーデンの北にも25度以上の日があるが、その日は岐阜とくらべるとずずしいと思う。岐阜の湿度は高いので写真のような日だったら、あまり動なくてもあせ出たみたいになる。そして動いたら、ものすごく気持ち悪くてあせくさい人になる。

この写真をとった日は、今まで私の一番の暑さを経験した日。ある日、いつもの通り遅く起きて、シャ

ワーをあびて、大学へ自転車で行った。その朝はいつものように暑かったが、授業の後寮にもどろうと思ったが15分自転車を一生けんめいこいだ時、急に大切な事を思い出した。大学にかばんを忘れてしまった。そしてもう一度、大学へもどった。すごくあつくて、湿度が高くて、信じられない暑さだった。

もどりながら写真の温度計を見た。37度だった。地獄のような暑さだった。



私の心に残る この一枚

ダーヴィッド・ヘッドベリ



「私の心に残るこの一枚」は、古くてなつかしい「ニンテンド・ファミコン」を中古品店で買って、私たちが住んでいる学外研でゲームを

やっている写真だ。私はこのごろの新しいゲームにはきょうみがあまりないが、子供の時にやったゲームなら、その時のなつかしい思い出がたくさんあるので、じっさいにはつまらなくても何度でもやれるような気がする。

私が日本語を勉強し始めた理由はテレビゲームではないが、クラスにはテレビゲームにきょうみがある人が多いので、私の子供時代にあったきょうみは最近また大きくなってきた。日本に来る前に中古ゲームきなどを売っている店があると聞いたが、その店が多くて、本当に古いゲームもたくさん売っているのを見た時、びっくりした。

この写真を友だちに見せた時、彼は「この写真からおさない幸せがあふれ出ている」と言った。私と同じ年ぐらいでそう思っている人は世界中に多いと思う。子供の時、「これは日本のゲームだ」と私はぜんぜん思わなかったが日本に来てから、日本の子供の時やったゲームのみっせつなかんけいがよく見えた。

日本でこのオリジナル日本のゲームきでなつかしいゲームをやったのは少し変な感じで、とてもおもしろかった。もしスウェーデンにもこのような中古

品店がたくさんあったらいいが、人口みつどのひくい国なので無理かもしれない。



ホタルについて

インゲラ・ヘッルグレン



私の心に残るこの一枚はホタルの写真だ。6月の初めにチューターといっしょにホタルを見に行った。その時私はちょっと陰気な雰囲気があった。それで、ホタルを見た時その気持ちが強くなった。

この写真はついている写真だ。私とホタルは15秒間じっとしていた。でも写真はやっぱり暗いから、ホタルの体があまりよく見えない。カメラのピントはホタルの後ろにあるけど、ホタルについてホタルの後ろは一番大切な物だ。

友達に見せた時みんなは「へええ、きれいだね」とか「その写真がほしい」と言った。

経験の説明は難しいと思う。きれいだから夜のうちにだんだん嬉しくなったけど、ホタルの生活を考えると悲しい気持ちも来た。つまり、感情の経験だった。



魚の写真

ヨナス・リデン

この写真は郡上八幡に行っていた時撮った写真です。ホストファミリーは漁師で、たくさん魚を食べたからです。写真の2匹は腸があって、魚のないぞうを

取り除いていませんでした。

写真は7月15日に撮りました。この時、ホストファミリーのお父さん



はバーベキューパーティーをしました。私とお母さんは一緒にこのパーティーに行きました。お父さんは友達と一緒に色々な食べ物を焼いて、ビールを飲みました。お父さんは私にビールと魚をくれて、「はい、どうぞ。食べる。」と言いました。

私は魚を調べて、びっくりしました。魚のおなかは切っておりませんでした。食べてみました。

この写真はとても面白くて、いんしょうてきだと思います。たとえば、日本に行っている間にたくさん魚を食べました。だから、この写真を見る時、私は日本料理と私の日本旅行を思い出すとします。そして、彼女に見せる時、彼女は「ウワー、とてもいやだ」と言いました。彼女は魚が大嫌いだからです。

この経験はとてもいい経験になったと思います。ホームステイは楽しくて、日本料理の魚が大好きになったからだと思います。スウェーデンに帰って、バーベキューをする時、このような魚料理を試してみるつもりです。



日本の友だちけいけん

フィリップ・ニルソン

最近、私は日本の友だちの家を始めてほうもんしました。友だちの両親は「スウェーデンの友だちに会いたい」と言いました。そして友だちは私をしょうたいしてくれました。私はすごくうれしくなりました。それで、1本ワインを買って、行きました。友だちは私を大学までむかえにきてくれました。家に行く前にすしを買いに行きました。そして、友だちの家に行ってから、両親に会ったり、プレゼントをあげたり、すしを食べたりしました。友だちのお父さんの名前はたくやです。お父さんは「親父とよんでください」と言いました。両親はとても親切でした。ばんごはんのあとでお父さんはいおりの前に



おいてあったまねきねこを私にくれました。2つありました。お父さんは「1つえらんでください」と言いました。いいプレゼントだと思います。それから、お父さんは私をうかいにつれて行ってくれました。それもよかったけいけんです。でもそのことはほかのしゃしん。だから何も書きません。



私の心にのこる
この一枚

ローゲル・ロン



せんしゅうぼくは郡上八幡に行ってホームステイの家族に会いました。家族はとても親切でした。

ぼくとペーターはたくさんいいけいけんをもらいました。たとえば月曜日のあさにぼくとお父さんと兄弟たちはいっしょにけんどうをれんしゅうしました。

れんしゅうはとても楽しかったので、ペーターが写真をとりました。この写真です。ぼくはまけたんだけど、とても楽しかったです。

ぼくはけんどうが大好きなので、この写真はいんしょうてきだと思います。

この写真を友だちに見せた時、友だちはたとえば「あせくさそうだよ。」と「ぼくはけんどうをぜんぜんしらないよ。」と言いました。

このけいけんはとてもいいけいけんだと思うから、ぼくはずっとそのけいけんをおぼえています。郡上八幡に行ってよかったです。

読んでくださってありがとうございます。



郡上で食べた
懐かしい鮎の塩焼き。

ビョン, ヨン ギュン

ほんとうに運がよかった。僕として一生わすれられない思い出になった。こんなにおいしい魚を食べられるなんて。郡上へ行く前、僕は蒸し暑くて夜遅くまで眠れなかった。それで涼しいところを探しているところだった。ちょうどその時三階からテレビの音が聞こえて、ついそちらに行ってしまった。テレビではゲストが出て来ているいろいろな料理を味見して、ゲストがお互い好き嫌いの食べ物を選ぶ番組だった。あとでわかったが「食わずきらい」という番組だそう。とにかく僕はその番組の中で「鮎の塩焼き」というものを見たとき、それが不思議に食べたくなった。それで、僕はこう思った。きっと食べてみよう

次の日の朝、ちょっと朝寝ぼうしたから、急いでにづくりして、待ち合わせのばしょに向かった。やっと郡上八幡に着いた。オリエンテーション、紙細工、郡上おどり、書道、歓迎交流会など郡上の一日はとても楽しかった。特にホームステイをしてくれた和田美和子さんと出会えたことが一番うれしくてよかった。和田さんはほんとうにやさしいし、とても親切な人だった。まるで僕の母みたいだと感じた。二日目は昨日と違って雨が降ったり、止んだりした。それで、一日中ゆっくり休んで夜に昨日教えてもらった郡上おどりをおどりに行った。でも途中でわかに雨が降ってもうおどりはつづけられなくて残念だった。次の日も一日中ずっと激しい雨が降って困っていたが、和田さんがせっかく来たからいろいろなことを経験しなければならぬと言って、温泉に行った。温泉はすごくよかったが、それよりもよかったのは数日前テレビで見た鮎の塩焼きが見つかったことだった。ほんとうにこんなところで鮎の塩焼きを見るときは思わなかった。びっくりした。数日前



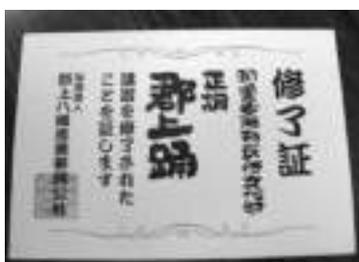
番組で見たとおり味もものすごくおいしかった。とてもいい気持ちだったから、僕たちは三人で記念写真も撮った。そのあと温泉に入ってからホームステイの家に帰って来た。ちょっと休んだあと和田さんの友達と話し合ったんだが、日本の田舎の生活とか日本の文化などが少しはわかってきた。今度の作文を書きながら郡上で食べた懐かしい鮎の塩焼を思い出した。僕は韓国人として生まれ、韓国の文化に慣れて過ごした。けれども郡上で食べたおいしい日本料理のおかげでもっと日本の文化がわかってきたし、親しくなった日本人の友達もできたし、郡上で出会った全てがよかったと思っている。ふと、和田さんの最後の声を思い出した。「いつでもむかえに行くから、また郡上へ来てね」と、今にも郡上に戻りたくなる懐かしい和田さんの声と暖かい声が僕の頭の中で聞こえている。

~~~~~



皆さん、踊りで  
一つになりましょう！

ハン, クワン ヒ



7月、真夏の中で訪れた郡上八幡。町の中に水が流れている美しい町。私は自然に恵まれたこの町に着いて穏やかさを感じた。こんな郡上八幡で一番有名なのが郡上踊り。どうして有名なのか、ただの踊りにすぎないと思いつつながら習いに会館へ行った。

最初はカワサキ。ゆったりしたテンポに合わせて踊る踊りだ。ちらりと見たら簡単に見えてが、やってみたら下手でみっともない自分に気付いた。そして、20分ほど繰り返した練習の結果、はじめて踊る皆の踊りは立派だった。美しい円形... 揃った皆の踊りの姿を見て、ただの踊りではない理由が理解できた。

次の踊りの春駒でさらに盛り上げるスウェーデンと韓国の学生たち。皆はすでに郡上踊りにはまっていた。イケメンの先生に教えてもらったのはこの二つだけだった。しかし、それだけで皆は夜の踊りをすごく楽しみにしていた。

いよいよ本番。真ん中で演奏される曲に合わせて踊る大勢の中のサマースクールの連中。浴衣を着て下駄を履いた外国人たちは日本人に比べてもぜんぜん格好わるくなかった。かえってきれいな浴衣に飾られた姿は光るほどだった。

二つしか習ってないのに、他の曲にもすぐ慣れて皆と楽しんでたサマースクールの学生たち。そこで皆は友達だった。国がどこかひふの色がなにかは重要ではない。たった一つの踊りで世界の人たちが一つになった。「あ〜これが郡上踊りの力だな〜」と思った。見習う価値があるいい文化だと今は思う。まだ郡上踊りを味わってないアナタ、ぜひ郡上踊りを楽しんでください。

~~~~~



郡上おどりと
私とアンナ

キム, ジ ソン

私の心の中に残る一枚はアンナと一緒に郡上踊りで撮った写真です。この写真は7月15日土曜日8時15分ごろ郡上市八幡町の旧庁舎記念館前で撮りました。私とアンナはゆかたを着ておどっているところを少しの間で撮ったんです。その写真を撮る前にはテレビの放送局や新聞社のカメラに撮られました。私にとってはゆかたを着たのも初めてだったし、郡上おどりもおもしろかったです。それにカメラでおどる姿を撮られたのはちょっとはずかしかったんですけど楽しかったです。それが私には印象的でした。なぜなら私の外見は、日本人と似ているから外国人に見えないからです。たぶんアンナと一緒におどった様子が楽しく見えたから写真に撮られたと思います。この写真を友達に見せたとき、友達はふたりともゆかたが本当に似合う、楽しそうと言いました。

日本の祭りは生まれて初めてだったんです。さらにゆかたを着て日本人ではなくてスウェーデンの友達、アンナと一緒におどったのは本当におもしろかったん



です。この経験は忘れられない思い出になりました。



忘れられない
ホームステイ

イ, エ ヨン

今回のサマースクールで、なにが一番よかったか決定するのはほんとに難しいけどかならずひとつを選



ばなければならないなら、当然郡上八幡でホームステイしたことだ。実はホームステイすることについてあまり期待していなかった。日本人は普通優しいから、もし私が失礼なことをしなければ、問題はなさそうと思った。しかし私はホームステイファミリーにいろいろなことをしてもらった。

この写真は私が初めてホームステイファミリーとフリータイムを持った時だ。(左側から)およめさん、およめさんの息子さんと娘さん。私のそばにるのがホスト夫婦だ。ひとつ惜しいのは私のためにお忙しいところを一緒にしてくれた明美さんが写っていないことだ。でもこの写真は明美さんをぬきにして全員いるから選択した。

私がなぜホームステイを忘れられないと思うかというわけは、初めてよい経験をさせてもらうことができたからだ。誰でも初めは忘れられないと思う。初めて日本の地方の家庭に泊まったことも全部大切だが、それでも私が一番大切だと思ったことは、こんなにすばらしい日本の家族と知りあったことだ。それにもうひとつ私が考えたことは日本は韓国をよく知らないのだ。日本と韓国は似ていることがたくさんあるから、地方でも特別に違わない。

でも「韓国もジャガイモある？」などの質問はちょっとおかしかった。だから、私は韓国と日本のためにできることがたくさんあると思う。

韓国はキムチの国とか韓国人はただ辛いものをたくさん食べる人たちという考えはこれからだめ！韓国は日本を、日本は韓国をよく理解ができる機会、

つまりサマースクールような機会がもっとたくさんあればいいと思う。



私の記憶に
残っている自転車

オ, ウン ジン

忘れてしまっても写真を見たらそのときを思い出す。それで私たちは記憶したいことをあんなにたくさんの写真に撮っているのだろう。この写真の中で心に残っていることは自転車にのったことだ。日本にきてから、いろいろなことがあったが、これはぜったいわすれられない。実はこの写真は事故がおきたあとに撮ったものだ。なぜなら私があった事故はあっという間におこったことだから、そのときに写真を撮られなかった。学校へいくあいだにそのときの状況を再演することがむずかしかったので、自転車と景色を一緒に撮った。自転車について、次のような経験をした。

私が岐阜に来てから、自転車についていろいろな経験があった。一回目は、学校へいく途中だった。そのまえの日に雨がふったので、道に大きな水たまりができていた。その水たまりをよけようとしてこぼしてしまった。それで体のいろいろな部分にけがをしてしまった。でもいなくなかった。何日か後の、やはり学校へ行く途中だった。その日は雨がずっとふっていた。それで目のまえがよく見えなかった。道を渡るあいだに車がきた。私は車が先にとまるとおもった。たぶんその車のうんてんしゅは私かとまるとおもったと思う。それで私は車にぶつかった。そのときも大丈夫だった。交通事故だったけどけがをしなかったのでよかった。あぶない状況だったけどこれからもっと注意しなければならないとおもった。はじめてあった事故だから、私の記憶に残っている。あとでこの写真を見たら自転車に乗るときは注意しなければならないと思うだろう。だからいい経験だった。



まとめの会とアンケート集計結果報告

8 週間コース参加留学生
3 週間コース参加留学生

ルンド大学(スウェーデン) 13 名
ソウル産業大学(韓国) 5 名
計 18 名

プログラム最終日の7月26日に、本年度のサマースクールに対する学生からのフィードバックを得る「まとめの会」を実施した。会は、前もって学生に配付し記入を依頼したアンケート(後掲)の記述を参考にしつつ、個別の事項について学生からの発言を求める形で進化した。

本稿では、今後のサマースクールをどう改善すべきか、もしくは維持すべきか、アンケートの回答及び学生発言から具体的に浮かび上がってきた点について述べる。

まず、月曜日から木曜日の午前に行った日本語授業に関しては、レベル・内容・教え方は適当であり良かったとの反応を得られた。しかし、授業時間の長さには、多くの学生から「長すぎて集中力が持続できない」というコメントが出された。現行では各日90分クラスを2コマ実施しているが、これを60分クラス×3コマにしてほしいということである。来年度は対応を考えたい。

次に、例年どのようなトピックを選ぶか、誰を講師に選ぶかに頭を悩ませる日本事情講義だが、本年度はほぼ全員がアンケートで「とてもよかった」「よかった」と答えていることから、ある程度は成功したと考えてよいと思われる。しかし、個々の講義について細かく意見を募ると、やはり「難しかった」「わからなかった」というコメントが得られ、現状を維持するだけでは十分ではないことが明白になる。内容的に充実した日本事情講義を提供したいという意図が実施サイドにはあるのだが、その内容レベルと学生の日本語レベルとのすり合わせが最も大きな課題となる。初中級レベルの日本語学習者に、質の高い日本事情講義を提供するにはどうしたらいいのか。これは本年度のみならず、以前からそして今後も常に本サマースクールの課題として存在し続けるであろう。この改善への試行錯誤が続くことが

予想されるが、まとめの会で学生から興味深い発言を得られたのは収穫だった。内容のレベルを落とさずに講義を提供するためには、同内容の講義を英語で行ったほうがいいのか(ルンド大学学生は英語が堪能である)と尋ねたところ、英語で行うよりも、日本語学習が進んだサマースクール後半で高度な内容を扱う講義を「日本語で」してもらったほうがよいという発言があったのである。これは、サマースクール参加者ができるだけ日本語で日本について学ぼうという姿勢を有している証であり、大いに感心し納得させられた。単年度で解決できる課題ではないが、講義担当者に学生の日本語レベルがどの程度であるか知っていただき、できる限りの配慮をいただくとともに、配付資料・講義順序を工夫し、より満足度の高い講義を提供していければと思う。

見学では、今年度新しく多治見での陶芸体験を盛り込んだ。轆轤を使っての作陶、素焼きへの絵付けを経験してもらったが、おおむね好評だった。実際に自分の手で何かを作る、作業するというアクティビティは、陶芸に限らず学生の好むところであったようだ。後日各自に作品が渡され、自作の実物を持ち帰ることができたのも良かったと思う。なお、陶芸の実地体験に先立って黒木登志夫岐阜大学学長に「日本の陶芸」と題する講義をお願いしたのも今年度の新しい試みであった。

サマースクール最後の大きな行事である1泊2日の京都旅行については、多くの要望が出された。それらの要望を集約すると「1泊2日は短すぎるから2泊3日にし、半日程度の自由行動時間がほしい。また、神社仏閣以外のところに行きたい。」ということになると思う。延長の可否は予算面、日程面を鑑みなければならないが、多くの学生の一致した意見として心に留めておきたい。また、かけがえない友人かつ頼りになる世話係を務めてくれた宿

舎チューターといっしょに旅行ができないだろうかという、斬新な意見も出た。

本サマースクールで毎年常に高い評価を得るのは、郡上市でのホームステイと宿舎チューターの活躍である。今年度も例外ではなく、如何に学生たちがホームステイを楽しみ、チューターに感謝しているかは後掲のアンケートを見れば一目瞭然である。

20名に近い学生のホームステイを一手に引き受けるということは、並大抵のことではない。郡上市のホームステイ受入家庭の皆様にはただただ感謝申し上げる他ない。ホームステイプログラムの一環として行われた座禅の席での「喝」にただただ驚いたという学生、水の美しい郡上で水遊びがしたかったと残念がる学生、ホームステイ後宿舎に帰ってから郡上踊りをしたと得意気に話す学生、それぞれが忘れられない思い出を作ったようである。本サマースクールの中で1番素晴らしいとあってよいこのホームステイプログラムを是非今後も継続できるよう、郡上市の皆様には感謝とともにお願いを申し上げたい。

宿舎チューターは、学期末試験期間が含まれる多忙なサマースクール期間中、献身的に学生の世話をし、良き友人となってくれた。教員の何倍もの貢献とパワーと若さでサマースクールを支えてくれた彼らにも感謝したい。チューターを務めた岐大生自身にとってもこのサマースクールが他では得られない貴重な経験であったことを心から祈っている。また、チューター達の良きアドバイザーであり、行き届いた心遣いをしてくださった宿舎管理人の西川氏にも感謝申し上げる。

最後になるが、まとめの会に至るまでのサマースクール全日程を表から裏から力強く支えてくださった留学生課の山田安男課長、粥川美重子課長補佐、飯沼千代香係長はじめ課の皆様には心からお礼を申し上げます。現在3週間コースで参加しているソウル産業大学の学生から、4週間の可能性も考えてほしいという要望が出されたのは、それだけ本サマースクールの価値が高く評価されていることの現れであろう。学生の笑顔の裏には数限りない方々の貢献と好意があることを心して来年度に臨みたいと思う。

【アンケート結果】

(★マークは学生の自由記述コメント。学生の書いたとおりに記載し、判読不能な部分はその旨記した。数値は全てパーセント。右のカッコ内パーセントは2005年度のもの。本年度新たに設定した質問項目

については2005年度の数値はない。)

日本語の授業について

1. 日本語のプログラム(午前は授業,午後は自習)について

- | | | |
|----------------------------------|------|--------|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 50.0 | (9.1) |
| <input type="checkbox"/> よかった | 50.0 | (77.3) |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 0 | (13.6) |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 | (0) |

★ Very good planning

★ Even though it's tough to get up in the morning it's better to get up and have whole day, than sleeping the morning away, take classes in the afternoon and find that the whole day has passed.

2. クラスで使った教科書などのレベルについて

- | | | |
|----------------------------------|------|--------|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 11.1 | (9.5) |
| <input type="checkbox"/> よかった | 83.3 | (76.2) |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 5.6 | (14.3) |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 | (0) |

★ Sometimes a little tough to follow but overall very good

3. 日本語の教え方について

- | | | |
|----------------------------------|------|--------|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 38.9 | (13.6) |
| <input type="checkbox"/> よかった | 55.5 | (77.3) |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 5.6 | (9.1) |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 | (0) |

4. 日本語の授業時間数について

- | | | |
|----------------------------------|------|--------|
| <input type="checkbox"/> とてもよかった | 27.8 | (9.5) |
| <input type="checkbox"/> よかった | 66.6 | (52.4) |
| <input type="checkbox"/> 悪かった | 5.6 | (33.3) |
| <input type="checkbox"/> とても悪かった | 0 | (4.8) |

★ もっと多くなりませんか。

★ Although I would prefer a 3 × 1h day, as 1.5 hr can be really long...

★ It's about what you can manage to get into your head in one day. Though I think 1and half hours without a break is a bit too long. A brain can function about 45 minutes, then it tends to shut off if no bread is given!

日本事情の講義について

1. 日本語の授業のほかに、日本事情の講義があることについて

- とてもよかった 38.9 (18.2)
- よかった 61.1 (59.1)
- 悪かった 0 (18.2)
- とても悪かった 0 (4.5)

2. 日本事情の講義を通して日本についてたくさん勉強することができましたか。

- とてもよかった 22.2 (19.0)
- よかった 66.6 (38.1)
- 悪かった 5.6 (42.9)
- とても悪かった 0 (0)
- 無回答 5.6

3. 講義内容(日本の経済, 陶芸, 能の講義, 能の実演指導, 相撲, 郡上, 京都)は、よくわかりましたか。そのほかに勉強したいトピックがありますか。

- とてもよかった 27.7 (26.1)
- よかった 61.1 (47.8)
- 悪かった 5.6 (26.1)
- とても悪かった 0 (0)
- 無回答 5.6

★ (他に勉強したいトピック) 岐阜市のれきしについてかもしれません。

★ I understand approximately 70% of the NO-lecture and the economy lecture together, difficult Japanese.

★ Most of the topics presented were interesting, but often I felt that the Japanese used was too difficult. Especially the lectures held by non-Gifu Daigaku members, as Gifu Daigaku employees are more aware of our level of Japanese understanding.

4. 日本事情の講義の回数について

- とてもよかった 11.1 (9.5)
- よかった 77.8 (90.5)
- 悪かった 11.1 (0)
- とても悪かった 0 (0)

★ もっと多くになりませんか。

5. 日本事情の講義の教え方について

- とてもよかった 5.6 (9.5)
- よかった 88.8 (52.4)
- 悪かった 5.6 (33.3)
- とても悪かった 0 (4.8)

国際理解教育の授業について

1. 国際理解教育(6月21日・テーマ:生活から見える文化)について(ルンド大学生のみ・ソウル産大学生5名は来日前につき参加せず)

- とてもよかった 0
- よかった 61.5
- 悪かった 30.8
- とても悪かった 0
- 無回答 7.7

★ For me it is very hard to keep a conversation running in Japanese therefore I did not like these classes.

★ The first told about Christmas and Valentines was a bit slow because it was hard to pinpoint the differences, but the second part was fun. When we got to talk about what we find strange (or surprisingly good) in Japan.

2. 国際理解教育(7月12日・テーマ:環境へのとりくみ)について

- とてもよかった 5.6
- よかった 72.1
- 悪かった 5.6
- とても悪かった 11.1
- 無回答 5.6

★ The topics were 悪い. And even worse when you have to discuss them in a language where you don't know the right ことば.

★ Topic は少しむずかしいと思います。

★ The “conversation club” lessons where unfortunately a bit (判読不可) and depending on who were in your group, the conversation easily become stiff.

★ Not only is it a difficult topic to talk about at home, but to talk about it in a language you don't master is even worse.

3. 国際理解教育の授業について感想や意見があれば

ば書いてください。また、日本人とどんなトピックについて話したいか書いてください。

- ★ 歴史について(2名)
- ★ おもしろかったと思います。
- ★ こくさいりかいきょういくはすごくいい事だと思います。自分の国の悪い事のはいいトピックだと思います。
- ★ The function of the classes was just OK. The first time I ended up with 2 Japanese people that just spoke to each other and didn't even look at us when they spoke to us.
- ★ The environmental problem topic wasn't fun nor interesting, as this has been discussed to death in e.g. Swedish classes or the media. An even worse topic would be the gender question as this felt a bit old and over with from my Swedish point of view. The interesting topics are discussed by the students and the tutors.
- ★ A good idea because you get a chance to talk to and venture ideas with Japanese people. Any particular topic doesn't spring to mind, but definitely something easier than trying to solve the problems of the world.

見学旅行について

1. 見学旅行の回数について

- とてもよかった 61.1 (23.8)
- よかった 38.9 (61.9)
- 悪かった 0 (14.3)
- とても悪かった 0 (0)

- ★ I want more!
- ★ Field trips are a nice break from studies but offer a closer look at Japan and if planned well a great opportunity to talk to Japanese people.

2. 見学旅行の場所とスケジュールはよかったですか。

- とてもよかった 55.6 (4.8)
- よかった 44.4 (85.7)
- 悪かった 0 (9.5)

- とても悪かった 0 (0)

- ★ きょうとの旅行ははやくすぎました。
- ★ More time in Kyoto perhaps? – “Free time”

3. サマースクールの旅行について、感想や意見があれば書いてください。また、ほかに行きたい所があれば書いてください。

【陶芸】(6月30日・ルンド大学生のみ)

- ★ とてもよかった/よかった(2名)
- ★ 楽しかったです。
- ★ The first part was fun (making own pottery from clay) but the painting part was unnecessary as this has been done before...
- ★ I love it! Getting away from the schoolbooks and do some thing with your hands was a most welcoming break!

【相撲】(7月10日)

- ★ とてもよかった/よかった(2名)
- ★ 楽しかった
- ★ ちょっとつまらなかったですが、いい経験でした。
- ★ A lot more interesting up close. I didn't have any expectations, so I was very happy with the experience.

【郡上】(7月14日~17日)

- ★ とてもよかった(2名)
- ★ 一番いい経験でした!でも、郡上に行く前にホストファミリーについて色々なことを知りたいです。子供がいるとかどのきょうみがあります。りゆうは例えば、いいおみやげを買いたいからです。
- ★ 日本の文化もなったりホームステイもあるしとてもよかった
- ★ 最高
- ★ ホームステイの家族の情報を行く前に知りたかったです。
- ★ すごく楽しかったです。
- ★ The best all summer. Being able to see Japan up close in a family and experience all kind of different things. A keeper for the future, that's for sure!

【京都】(7月20日～21日)

- ★ とてもよかった／よかった (2名)
- ★ 最悪
- ★ ちょっと2泊3日だったらよかったと思います。
- ★ きれいだったんですが、(以後記述なし)
- ★ It was very beautiful but sad to say I felt to much as tourist. I understand the limits, but the chartered bus with limited time at each place just ain't for me, I believe. I will definitely go back, taking things in my own pace. A great trip though, and everyone not like me.
- ★ All of the events were とても楽しかった。I enjoyed them all very much. Especially the homestay were really fun!
- ★ The rest was great, although I, as (判読不能), would have liked more time in Kyoto.

郡上でのプログラムについて

- とてもよかった 88.9 (44.4)
- よかった 11.1 (44.4)
- 悪かった 0 (11.1)
- とても悪かった 0 (0)
- ★ 最高!
- ★ Perfect!
- ★ A very good experience in Japanese culture, though the lunch the second day could be planned a bit better. There was a little to much time spent on waiting on occasions.

プログラム(紙細工, 郡上おどり, 書道, 座禅, 茶道, ホームステイ)についての感想・意見をくわしく書いてください。

- ★ よかったです。でもホストファミリーとちょっと長い間とまりたいです。
- ★ とてもたのしかったです。かみざいくとぐじょうおどりとしょどうとホームステイが一番楽しいと思います。
- ★ ざぜんをやってみた時はちょっと・・・なぐられるために日本へ来ませんでした。先生は「いい経験だった」と言いましたが、私の意見は違います。その伝しょうをわかりません。

- ★ ぜんぶはよかったけどぐよおどりはとてもよかったです。
- ★ とてもよかったと思う。テレビや本などで日本の文化や生活のすがたを見て覚えたんだが、実際ホームステイをして見ると、もっと日本文化や生活などがわかってきた。ほんとうにいい経験だった。
- ★ 郡上おどりを全部習いたかった。
- ★ 全部はよかったと思います。
- ★ I like the Gujo dance the best. I even got a めんきょう (めんきょ) when dancing on Saturday evening.
- ★ The meditation is perhaps the thing I liked the least. First, I couldn't understand a single thing of what he talked about, and second he struck Bjorn really hard which make me so upset and mud. The tea ceremony was too long.
- ★ Paper craft was a surprise, but definitely fun. Gujo dance was definitely worth the effort and I would like to go back for an allnighter someday. Calligraphy ain't my strongest side, but fun nonetheless. Zen meditation was interesting and surely good for you if you practice a bit and tea ceremony. I've taken to my homestay was the best, but I bet you've already figure that out.

宿舎とチューターについて

1. 宿舎の設備について

- とてもよかった 38.9 (22.7)
- よかった 50.0 (36.4)
- 悪かった 11.1 (31.8)
- とても悪かった 0 (9.1)

宿舎にほしい設備があれば書いてください。

- ★ りょうのふとんは少しかたかったと思います。
- ★ 新しいたつきゅうの机を買う時間でしょうか。
- ★ インターネットとエアコン
- ★ インターネット
- ★ 何も考えられません。
- ★ AC please! Otherwise good. Internet could be useful but far form a necessity.

- ★ The only complain I have is that the laundry never dries and the washer's a bit crappy. Other from that, I feel as if I have everything I needed.

2. チューターが宿舎にいることについて

- とてもよかった 83.3 (61.9)
- よかった 16.7 (38.1)
- 悪かった 0 (0)
- とても悪かった 0 (0)

- ★ All tutors are FABULOUS!
- ★ The tutors are great!!
- ★ It's great to have them a round and even though I know it's voluntarily I can't help but feeling sorry for them having to look after us.

3. チューターは助けてくれましたか。また、チューターからどんなサポートがあったらいいと思いますか。

- とてもよかった 83.3 (52.4)
- よかった 11.1 (47.6)
- 悪かった 5.6 (0)
- とても悪かった 0 (0)

- ★ さくぶんを書いている時、今すぐ助けてくれることは大切です。カンニングじゃありません。手伝うことです。
- ★ They've helped a lot in explaining things around the house, translating things and helped out talking to store clerks. I think the biggest support is just being there and helping out with things they feel they can, and want to, help out with.

大学の施設について

サマースクールの間に使った大学の施設を書いてください。

- ★ 図書館, 学生食堂 (2名)
- ★ すこし古いです。
- ★ 図書館でインターネットを使ったり, 食堂で食べたりしました。
- ★ じどうはんばいき, コンビニ, トイレ, ぜんぶよかったです。
- ★ よかったです。

- ★ とてもよかったです。
- ★ The computers with and internet connection at the university are too old and slow, otherwise everything has been good.
- ★ The internet of course. Being able to check your email is very valuable. Other facilities I haven't used really. It's a bit far to go back in the evening and you don't really feel to stick around after you have lunch and checked your email.

サマースクール全体について

1. このサマースクールの全体的な評価について

- とてもよかった 77.8 (28.6)
- よかった 16.6 (66.7)
- 悪かった 5.6 (4.8)
- とても悪かった 0 (0)

2. これからのサマースクールのために、提案や意見があれば書いてください。

- ★ 何をするについて話しすぎました。
- ★ 宿舎からがっこうまでちょっととおいからあつひはたいへんです。そしてあめがふつたらもっと注意しなければならないんですがそれがちょっともんだいとおもいます。
- ★ 韓国の学生は短いです。もっと長くしてほしいです。
- ★ 最初、岐阜駅から学外研に行くとき、地図が必要だと思えます。
- ★ 毎日、チューターが3人以上いたら、もっと楽しくなると思います。日本人と話すのはおもしろいです!
- ★ Some are written in the text above. Apart from the few parts I haven't liked, I've loved my stay in Gifu. The teachers are good, and the tutors are super! I surely recommend the summer course for next years students.
- ★ I think a presentation of the host family before going would be appreciated. In that way the students can prepare omiyages a bit better.

第二部 夏期短期留学(派遣)

グリフィス大学

オーストラリア グリフィス大学参加者名簿(合計 10 名)

日程: 2006 年 8 月 24 日から 9 月 29 日(5 週間)

氏 名	所 属
柴田 利佳	教育学部 理科教育(物理学) 1 年
篠田 晃一	地域科学部 1 年
井上 弓	地域科学部 地域科学科 3 年
藤井 裕太	工学部 電気電子工学科 1 年
安田 悠里	工学部 生命工学科 2 年
水野 陽一朗	工学部 機械システム工学科 3 年
小村 美菜子	工学部 機能材料工学科 3 年
櫻木 友佳子	工学部 機能材料工学科 3 年
川田 里絵	応用生物科学部 生産環境科学課程 2 年
新美 健太	応用生物科学部 獣医学課程 2 年



事前研修について

私たちに英語を教えてくれたのは2人の留学生、英国出身のチャックと米国出身のアンディでした。その授業を受けたのは、私たちサマスキの10人だけではなく、1年間の交換留学を控えた方々も一緒でした。さらに授業には、大学OBの方、留学を終えて帰ってきた方、オーストラリアからの留学生など多くのゲストも参加してくれました。授業は水曜と金曜に2時間ずつ行われました。

自己紹介、家族の紹介の仕方に始まり、道案内、レストランや店での会話などたくさんの事を習いました。最後の授業の日には、留学生センターの先生方も交えてロールプレイを行いました。

‘授業’とは言ってもそう重苦しい雰囲気ではなく、チャックとアンディは本当に気さくに私たちの質問に答えてくれましたし、ゆっくりはっきり話してくれました。私は外国出身の人と話したことがほとんどなかったので、突然オーストラリアへ行って外国人と対面するのと、2人の授業を受けてから本番を迎えるのとはずいぶん心持が違ったと思います。事前研修を受けることによって、間違っていようがとりあえず話してみるという精神が養われたと思います。

(井上 弓)



ありがとう
チャック
アンディ

お別れ会
&
打ち上げ



大学について



僕はGE2Bというクラスでした。僕たちのクラスは全部で10ヶ国の人たちが一緒に授業を受けているものすごく国際色豊かでした。最初、先生が何言っているのか全然わからないし、なんてしゃべっていいのかもわからなくて、「こんなんで1ヶ月もやっていけるのかな」、「友達できるのかな」と不安になっていました。僕は日本でもなかなか積極的にしゃべることができないのに、英語でなんでもっと無理！という感じでした。なので、初めのほうは日本人の子とばかりしゃべっていて、全然英語をつかえませんでした。

でも、だんだんとしゃべれるようになってきて、さらに冗談とか、どうやったら笑いが取れるだとかも考えるようになりました(笑)先生たちはものすごく親切だったし、まわりのみんなもすごく親切でした。結構みんな日本語を学びたがって、最後のほうになってからは朝教室に入ると「オハヨウ」と片言だったけどあいさつを交わしたり、「アナタハ〇〇デス」などいたりしてきて、一生懸命しゃべっている姿が面白かったです。

僕が帰る週になるとあるクラスメイトの子が「お別れパーティーをしよう」って言ってきて、急だったけどみんなでSouth Bankという場所でBBQをしてくれました！みんな寂しいって言ってきて、ものすごくうれしかったし、このクラスでよかったなと思いました。

このメンバーとはたった5週間しか一緒にいなかったし、言葉もしっかり交わせたわけではないけど、かけがえのない友達になれたと思います。これからもメールなどで付き合いを続けて行きたいと思います。

(新美 健太)

オーストラリアに到着した次の日、Grammar, Speaking, Writingのテストによってレベルに応じてクラスに分けられた。Grammarは中学レベルだから大丈夫。Speakingは一对一で先生と会話。Writingはテーマに沿って論述。時間と字数が足りなかったうえ、単語力の少なさを思い知った。

私のクラスは、日本6人、台湾2人、香港2人、マカオ1人、中国1人、韓国2人、ベトナム3人の計17人だった。年齢は17~44歳と幅広かった。初めは中国やベトナムの人の発音が聞き取りにくく、相手の言いたいことが分からず困った。だが、慣れてくると歌手やマンガのキャラクター、映画など色々な話で盛り上がった。身振り手振りに筆談も加えて、電子辞書を使って、絵を書いて…様々な方法を使って何とかコミュニケーションがとれたと思う。授業はGrammar, Speaking, Listening, Computerlab, Writing, SACなどがあつた。SACの時間はDVDやビデオを見たり、カセットを聞いたり、英語の雑誌を読んだり自由に英語の勉強ができる。月・水・金は放課後、SAC roomが開いていたので、DVDやビデオを見て英語に接する機会を増やすようにした。授業ではGrammarは簡単だったが、SpeakingとListeningは難しかった。最後の授業の日に、ミニ運動会みたいなアクティビティがあつた。私たちのクラスは障害物リレーに参加した。応援が盛り上がり良い思い出ができた。最後に、みんなのプロフィールや自国の話、この5週間の思い出などを書いてクラスマガジンを作っ



た。それに寄書きをしてもらい、連絡先を交換した。初めは仲良くなれるのか不安だったが、最後の二週間くらいでクラスみんなが一気に仲良くなったように感じた。私の Broken な English でも伝えようと必死になれば、相手は理解しようと聞いてくれるし、伝わるものだと感じた。クラスメートと仲良くなれたのが、嬉しかった。

(川田 里絵)

私は GE3B というクラスに配属されました。最初は日本人が自分の他に一人しかいないことに戸惑いましたが、今振り返ってみると、そのことが積極的に英語を話すきっかけになったと思います。授業が始まると英語を用いてのディスカッションのレベルがとても高いことに驚きました。特に中国、中東から来ている人たちのスピーキングのレベルの高さに圧倒されました。でも、意見を言い合う授業形式に慣れてくると自分から意見を述べるできるようになりました。ただ、一つ痛感したのは、トピックが出されて、それについて自分の考えをまとめる力が足りないということです。これは英語を話す能力とはまったく別物ですが、自分の意見を作れないと当然それを英語で話すことはできません。ですから、英語だけでなく、思考力も大事だということをサマスクに参加しようと思っている人は覚えておいてください。

クラスのみならず打ち解けるのには、私の場合、多少時間がかかったと思います。特に最初は自分の英語に自信がなくて話しかけるのに抵抗がありました。しかし、徐々に英語を使うことに抵抗がなくなり、自然と話しかけることができるようになりました。でも、一番大きかったのはクラスの皆でインドアロッククライミングに行ったことです。私のクラスの先生の提案で行くことになったのですが、皆と打ち解けてロッククライミングも楽しめて本当にいい思い出です。最後にミニ運動会みたいなものが開催されて、クラスの皆で大いに盛り上がり、とてもいい経験でした。

クラスの皆とは5週間の間で本当にいい友達になれたと思います。1人の子はお土産までくれました。あのメンバーで過ごした5週間はこれからもずっと忘れたいと思います。

(篠田 晃一)



私たちがオーストラリアに到着した翌日、クラス分けテストがありました。AM8:15～PM1:00の間に grammar, speaking, writing の3つのテストを受けました。grammar は穴埋め問題(語群ありとなし)、書き換え問題(例、能動文を受身の文になおしたり、仮定法になおしたり)などそんなに難しい問題はありませんでした。次に speaking は先生と一対一で話します。しかし、私の場合、会話の内容はとても単純で名前、出身国から始まり休日の過ごし方を主に聞かれました。最後に writing は自分史と現在の環境問題について意見を書く問題でした。辞書が使えないのでけっこう大変でした。このテストの結果で GE1～5 のどのレベルに入るかが決まります。

私は GE3 でした。自分のクラスは、全員で 18 人でした。中国人 8 人、韓国人 2 人、台湾人 2 人、ベトナム人 2 人であとはサウジアラビア、コロンビアから 1 人ずつ。そして、日本人は私以外に 1 人でした。

授業は、AM9:00 に始まり PM3:30 に終わります。その間にブレイクタイム (10:45～11:00)、ラ



ランチタイム(1:00~2:00)があります。特にランチタイムはクラスメートと仲良くなるチャンスです! どんどん誘いましょう!

授業は、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、グラマーに分かれていて多くの時間をスピーキング、リスニングに割いていました。先生やクラスにもよりますが、スピーキングの授業ではプレゼンテーション、ロールプレイング(劇)などをやりました。リスニングでは、時事ニュースを聞いたり映画を観たりしてグループでディスカッションして考えをまとめ発表します。こちらの授業はディスカッション、発表、ディスカッション、発表と日本人には慣れないスタイルで進みます。人前で話すことが苦手な私には緊張の連続でした。しかし、回を重ねるごとにだんだん落ち着いて話すことができるようになりました。最後の方では、しっかり指棒も使いこなせていた?と思います。この経験は将来きっと役に立つと思います。この授業では、プレゼンの仕方、発表の仕方を学ぶこともできますがより重要視されていたのはディスカッションでした。4~5人のグループで、あるテーマについて話し合います。当然英語ですから言いたいことが言えなかったり、相手の意図することが解らなくて困ることはよくありましたが、話す、聞く練習には打って付けで、また自分の意見の根拠をしっかりと持つことも大切だと知りました。海外の人は、私が「Me, too」, 「I think so too.」と言うとたいい「Why?」と聞いてくるからです。ディスカッションで一番おもしろかったことは、クラスメートの国の話を聞くことができたことです。文化、歴史、食べ物、現在その国が抱えている問題などなど日本との共通点や相違点を発見できました。

クラスメートはみんなフレンドリーでした。クラスの雰囲気はとにかく明るかったです。私以外のクラスメートはオーストラリアの大学に入学するために英語を勉強していました。みんな上手に話すので最初は圧倒され、上手に文法通り話さなくてはと力が入って結局口ごもっていました。慣れてくると単語一つだけでも通じるのだからと聞き直り、それからは「簡単に、簡単に」と気持ちを落ち着かせ話すようにしていました。単語の羅列でも通じます! 僕は、香港のケルビンと中国のジェシーと特に仲良くなりました。二人とも日本の企業、ブランド、日本食、日本語をよく知っていましたし日本に大変興味を持っていました。私はよく二人に日本語を教え

て、二人からは中国語を教えてもらいました。授業後、買い物にも行きましたし、恋の相談にも乗りました。本当にいい思い出です。二人が日本に来るときは絶対会って寿司パーティーを開く約束をしました。

いろいろな国から来た人が一つの教室に集まって授業を受ける、それは最初戸惑うことも多かったです。なにより国民性、文化を肌で感じる事ができて本当に刺激的でした。英語以外のこともたくさん学べたすばらしい5週間でした。

(水野陽一郎)



私のクラスは日本人がとても多いクラスでした。一緒に行ったサマースクールのメンバー4人と他の大学の日本人2人、マカオ出身の子が3人、台湾出身が2人、韓国出身が2人の計13人のクラスでした。クラスみんなとても仲がよく、いつも楽しい雰囲気です。授業をやっていました。ただ日本人が多いこともあって、たまに日本語を使ってしまうときがあり、その点は少し残念でした。中でもマカオ出身の3人とは仲良くなって、一緒にランチを食べたり、日本に帰ってからメールをやり取りしていました。ランチを日本人意外と一緒に食べると英語を使わざるを得なくなるので、いいスピーキング練習になりました。また、韓国語や中国語などを教えてもらったり、日本語を教えたりするのも楽しかったですよ。

授業は月曜日から金曜日まで毎日あり、月曜日~木曜日は9:00AM~3:30PM、金曜日は9:00AM~1:15PMでした。朝はだいたい11時ごろになったらモーニングティータイムが15分間あり、軽なお菓子を食べて休憩をしていました。ランチタイムは1時から1時間で大学のカフェテリアや外の芝生でみんなと一緒にランチを食べていました。

現地についた次の日にクラスわけのテストがあり、ライティングとスピーキングのテストを受けました。そのテストの結果にあわせて、レベル別にクラス分けがされ、私は下のほうのレベルのクラスになりました。私のクラスの授業内容は思っていたより簡単で、文法は高校で習ったことの復習のようなものでした。スピーキングは日常生活

で使えそうなものでとても勉強になりました。また、授業がすべて英語なのでいいリスニング練習になりました。下の表は私のクラスの時間割です。

SACの授業は英語のDVDや本、カセットを自分で選んでやるというもので、私はたいていDVDを英語の字幕付で見っていました。日によって先生も変わり、毎日楽しい授業を受けることが出来ました。

(柴田 利佳)

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
9:00-10:00	Reading & Writing	Integrated skills	Listening & Speaking	Integrated skills	Reading & Writing
10:00-10:45		SAC		Language lab	
11:00-12:00	Integrated skills	Integrated skills	Integrated skills	Listening & Speaking	Integrated skills
12:00-1:00	Computer				
2:00-3:30	Integrated skills	Integrated skills	Integrated skills	Integrated skills	

ホームステイについて

私がお世話になったチャン一家は、ホストファザーのイアン、ホストマザーのエビー、娘のタイラ(3歳)の3人家族でした。そして、中国人留学生のアーチャがいました。今年の10人のメンバーの中では唯一のアジア出身のホストファミリーでした。まだ若い夫婦だったので、エビーは「私の事をMOMとは呼ばないように!」と言っていました(笑) 決まり事はそれと、アーチャと共有していたバスルームを自分たちできれいに保つことだけでした。1日目にエビーは、学校への行き方、バスチケットと国際テレカの買い方を教えてくれました。

毎週木曜日はイアンの両親の家と一緒に夕飯を食べていたのも、彼らと話す機会もたくさんありました。そこにも大阪から来た日本人留学生がいたので、その子とも仲良くなれました。また家には、イアンの弟夫婦、エビーの妹夫婦もよく遊びに来たので、彼らともよく話しました。

洗濯はエビーがしてくれると言ってくれましたが、私は洗濯機を使って自分でしていました(週1~2回)。靴下や下着は一週間分も持っていなかったので、毎日洗面所で洗って部屋に干していました。

唯一つらかったのは湯船に浸かれなかったことで



す。冬の終わりなので、シャワーだけでは寒かったです。

イアンはクッキングパパでとても料理が上手なので他人をキッチンに立たせたくないかなーと思いましたが、「みんなのために日本食を作ってみていい?」と聞くと、「Of course!」と言ってくれました。イアンは日本のからあげが大好きだと言うので、からあげと親子丼を作りました。買出しも一緒にSUNNY BUNKへ連れて行ってってくれました。エビーの妹夫婦も食べにきてくれて、6人前作りました。結果は大成功! みんなあっという間に平らげて

くれて、「レシピを英訳してちょうだい!」と言ってくれました。西洋の人だとしょゆやみりんといった日本的な味付けが苦手なホストファミリーも多かったようです。特にみそは要注意です!

滞在した6週間、私は変に気を使うこともなく、とてもリラックスして過ごせました。それもこれもチャン一家がとても優しくかったからです。ここには書ききれない思い出がたくさんあります。娘のタイラタイラの存在も私の心を和ませました。また、オーストラリアの人は家族をととても大事にするなあと感じました。日本では時折わずらわしくも感じる親戚付き合いもオーストラリアでは意味合いが違っていたように感じます。また、イアンとエビーはオーストラリアで人気のお店を教えてくれたり、オーストラリアの法律について話してくれたりしました。ホームステイでの生活は異文化を知る貴重な体験となりました。

(注意点) 何でもかんでもホストファミリーが気を使って話を聞きだしてくれるわけではないので、自分から何かを聞いてみたり、話をふったりという努力を怠ってはいけません。でも、ひとつ何かを聞いてみるとそこから話しはどんどん膨らんでいろんな話をしてくれました。

(井上 弓)

私のホストファミリーは、両親と子供2人(6歳の男の子、3歳の女の子)でした。初めは、親が躰たがをするために怒ったりするのを間近で見たり子供が泣いているのを聞いているのが辛くストレスを毎日感じていました。しかし、聴いてると怒った後にIloveyou.と言ったり音楽をかけて子供の気分を和ませたり最後には抱き合い子供から謝っていたので、こうゆう躰もあるのだと理解し一週間も経てば慣れました。朝はたいいて自分でトーストを焼いて昼はサンドイッチ夜はパスタやカレーやミートパイなんかを食べました。寝るのは9時ぐらいと早めでした。夜は、8時~12時なら友達と10分以内なら無料という携帯で何十分も話したりしていました。洗濯は週一回自分でやり、食べ物は勝手に食べて良いと言われたので夜アイスクリームやウェハースをつまんでいました。私のホストファミリーは結構色んな所に連れて行ってくれました。ちょっとした買い物、マザーの友達の家やホームエステ、今度家を建てる土地を見せてくれたり、マザーの仕事場のChurch、子供の学校、サウズバンク、CityCatに乗りに行ったりと観光地だけでな

く現地の生活が分かるようなところに連れて行ってくれたのでホームステイならではの経験が出来ました。洗濯をしていたら洗濯を干す台を貸してくれたり、風邪をひいたら蜂蜜入りの紅茶を入れてくれたり、くしゃみをしていたらカーテンを取り付けてくれたり、ご飯は日本ではスチームすると言ったら次の日から炊飯器らしきものでカレーを作ってくれたり、動物の名前やオーストラリアの習慣についても話してくれました。日本人や空手をやっていた友達を家に連れてきてくれて私が話しやすい環境を作ってくれました。子供たちとはウノや動物カルタやX-BOXで遊びダンスや歌を歌ったりしてフィーバーしていました。初めは、子供の話は全く何を言っているのか分からなくて、しかも小さいので私の話をじっと聞いてくれないので自信を失って同じくらいの子供であれば良かったなあと悩んでいました。しかし、簡単な「トイレの電気つけて、ここに座って、一緒に来て」など三歳の子供の言うことに反応できるようになって、仲良くなり六歳の子は私が何を言っているのか分かっていないので話してくれなかったけど、親と私が話しているのを聞いてちゃんとした文章で話すようになり分かりやすくなり、二回繰り返して言うてくれました。水こぼされたり、洗濯物落とされたり、いきなり驚かされたり、時計の針を動かされて遅刻しそうになったり、ハプニングもたくさんあったけどなんか笑ってしまうような可愛らしさでゆるしてしまい、今思うと子供がいて本当に良かったと思います。子供との会話のときは気兼ねなく自由に話せました。私はそこらへんでめずらしい動物がいると写真を撮っていたのでそれを見せると実際にリザードやバットを探しに行き、絵本でオーストラリアの動物の話をしてくれました。学校から帰ると今日はどうだったの?と誰かは絶対



聞いてくれるので日記は英語で書くようにしてやったことは英語で話せるようにしていました。最後のほうは子供からも今日はどうだったの?と聞かれたときは笑いました。オーストラリアでホームステイするなら何か特別な日にはカードをあげるとすごく喜ばれます。友達が来たときに私のことを父の日もお母さんの誕生日もカードをくれたのよ、と私のことを紹介してくれてその友達も you are every sweet! と私のことを絶賛してくれたのでとても嬉しかったです。私は本当に英語で話すのが恥ずかしかったので日本人のいないクラスで一人学びたかったけど想像以上に日本人ばかりなのでこれはホームステイ先で話すしかないと思えるべく早く帰るようにしてコミュニケーションをとるようにしました。初めは家族の輪に入るのは気まずかったのですが最後には私は子供のソファ代わりになっていました。英語力はあまり上がらなかったけど、英語で話す楽しさ、伝わったときの嬉しさ、何より英語を好きになりました。何事も勇気を持って試しにやってみると上手くいきます。失敗を恐れない精神力や恥ずかしがらずに正直な気持ちを伝えることの大切さをこのホームステイで学びました。英語を学ぶと同時に人として成長できたことに嬉しく思います。

(櫻木 友佳子)

オーストラリアに着くと空港で大学の人が出迎えてくれ、学校に行って少し説明されたあと、すぐにホストファミリーと対面してホームステイ先に車で向かいました。私を出迎えてくれたのはホストファーザーでした。まだ外国人と接することに慣れていなかった私はとても緊張しました。車の中でファーザーは話しかけてくれるものの、なかなか聞き取れないし、返事もうまくできなくてどうしようかと思いました。自己紹介のフレーズはいろいろと事前研修で学んだはずなのに、いざその場面になるとなかなか言葉が出てきませんでした。でもファーザーは優しく「徐々に慣れていくよ」と言ってくれました。

私のホストファミリーはアイルランド出身の4人家族でした。マザーもファーザーも働いていたので、朝食は自分でトーストを焼いて食べていました。昼食はいつも机の上に用意しておいてくれました。夕食はマザーが作る日もあれば、ファーザーが作る日もあって、いつもみんなで一緒に食べました。アイルランドではマッシュポテトが日本のごはんのよ



うなもので、よく夕食に出ました。夕食は自分でお皿にとる形だったので、好きな量を食べることができました。私のホストファミリーはそれだけしか食べないの?と思うほど、意外と少食でした。

洗濯は自分でするものだと思っていたけど、私のホームステイ先ではマザーがやると言ってくれました。マザーは働いていて忙しそうだったしブリスベンは水不足ということもあって、好きなときに出していいよと言われたけど結構気を使いました。

土日は毎週私が出かけてしまって、ホストファミリーと会話するのは平日の夜くらいしかありませんでした。もっと一緒に出かけたりできたらよかったです。少し残念に思います。

最後の日、マザーが私にお腹を押すと音楽の流れるコアラのぬいぐるみをくれました。今、大切にベッドの横に置いてあります。

(安田 悠里)

私のホストファミリーはお父さんの Quentin, お母さんの Pamela, 三男の Israel, 三男の恋人 Ruth, 四男の Daniel の5人家族でした。

ホストファミリーの両親は、日本を含めたアジアに興味があるようで、何度も日本の生徒を受けた経験があり、慣れているようでした。みんな私に話しかけるときは、ゆっくりと簡単な英語で話しかけてくれました。それでもなかなか聞き取れない私に、何回も言い直してくれすごく親切でした。ホストファミリーと過ごした5週間はとても楽しかったし、みんなホームステイしている私がいても、自然体のままで生活していたので、最初気を使っていた私も本当の家にいるように過ごすことができました。ただ、私は毎週のように週末家にいなかった



ので、もう少しホストファミリーと過ごせる時間を持っても良かったと思います。

私のホストファミリー先は学校に割りと近かったのですが、朝6時半には起床し、8時に家を出ていました。キッチン、シャワーは自分の好きなときに使っていいとのことだったので、朝ごはんは自分で用意し、motherが作ってくれたサンドイッチをもって登校というのが日課でした。事前にオーストラリアの方々は早寝早起きで、健康的と聞いていましたが、私の場合そうでもなく、夜中の1時からいまでホストファミリーは起きていました。だから朝は全くホストファミリーに会うこともなく、私が家の鍵を開けて学校に行っていました。学校から帰ってくると、みんな「学校で何があった?」、「楽しかった?」と聞いてくるので、私はつたない英語で一生懸命説明しました。時々うまく言えず詰まってしまうこともありましたが「気にしなくていいよ」と言ってくれました。ホームステイが慣れくると現地の方々も難しい文法、単語なんて使っていないことに気がきます。どんなに文法的に間違った英語でも、現地の方々は分かってくれるので、まず話す事が大切なので英語で話す機会を大切にできるだけ多く持つように、積極的に会話してください。Cityで迷ったり、分からないことがあったときは、警察官やホストファミリーに恥ずかしがらずに聞いていました。夕食はホストファミリーが交代で作っていて、私の場合お米も出てきました。私は日本に比べて脂っこい食べ物が多いのかと思っていましたがそういう事もなく、魚、肉、カレー、パスタなど色々なものが出てきました。どれもとてもおいしく、すべて完食していました。何度か「手伝うことありませんか?」と聞いていたのですが、[No, Thankyou.]が多かったです。でも何度かお皿を洗ったときはすご

く喜んでくれていました。夕食の後はクイズ番組、アニメ、オーディション番組などテレビを見ながら団欒していました。私は英語が分からなくてもホストファミリーと団欒していたかったので、初めの1週間は8,9時で寝ていましたが、夜遅くまで起きているのもしばしばありました。シャワーを使うときは、なるべく短く、を頭に入れて使っていました。これも事前にオーストラリアは慢性的に水不足が深刻であると知らされていたので、初日にシャワーはどれぐらいの時間で入らなければならないかと聞きました。私の場合は、15分以下ということでしたがこまめに水を止めながら使うなど気をつけていました。洗濯は1週間に一回で、私のホストファミリーはハウスキーパーの方がやってくれるということだったので、下着、靴下、ハンカチ以外はやってもらっていました。人によっては全部自分でしていたようで私は甘えさせてもらいました。

Israel, Danielは日本のアニメ、文化、特にゲームが好きなようで新しいゲームが来たときは、私も参加させられ、いとこ、次男夫婦、おじさんなども家にやってきりと毎日にぎやかでした。夜中までみんなでボードゲームもしました。

途中Ruthは一旦里帰り、Israelは仕事のためにシドニーに行くことになっており、私が日本に帰国するまで一緒にいられず、何で一緒に写真を撮らなかつたのかが今、すごく残念で仕様がありません。思ったら即行動することは大切だと思います

今回サマースクールに参加したメンバーは、ほとんどの家庭で日本食を作りました。でもあまり気に入ってもらえなかった事が多かったので、作る時はホストファミリーの好みをきちんと聞いたほうが良いと思います。帰国前日はサマースクールメンバー、ホストファミリーでバーベキューパーティーをしました。みんなのホストファミリーに会うことができ、とても楽しかったです。

帰国当日私はホストファミリーにまた戻ってくると言ってきました。ホームステイをしてよかったと思うし、またもう一度ホストファミリーに会いたいと思っています。英語については格段に英語が話せるようになる訳ではないです。しかし、恥ずかしがらずに英語を話すこと、簡単な英語でいい、学校で習うような英語とはどこか違うのだということに気がきます。それに毎日が新鮮で私にとってとても貴重な体験になったことが一番の収穫だと思います。

(小村 美菜子)

僕のホームステイ家族はホストマザーだけであった。やさしくしてもらったおかげで、生活をするということに関してはほとんど不自由なくすごせた。ただ家族が一人ということで会話が短くなってしまふことが多く、少し残念であった。家での食事は主に買ってきたものか缶詰などであった。朝食はほとんどの日がシリアルで、たまにトーストと目玉焼きという日もあった。昼食は学校で食べたが、毎日サンドウィッチやフルーツなどを持たせてくれた。夕食は米が出る日も多く、野菜もよく出てきた。またフィッシュアンドチップスも頻繁に出てきた。また毎日朝夜に緑茶をいれてくれた。どんな食事のときでもフォークとナイフはいつもセットで出され、欧米の食事風景を目の当たりにすることができた。

(藤井 裕太)



休日について

モートン島

私達サマースクールの最大のイベントはこのMoreton 島への旅行だったと思います。Moreton 島とは砂でできた世界で2番目に大きな島で、その中でもタンガルーマというところに行きました。予約はオージーナビで取り、オーストラリアについて3~4日目には取っていたのではないかと思います。実際旅行したのはオーストラリアに着いて3週間目だったと思います。旅行の予約は早めが安いです。私達サマースクールメンバーは、全部で10人だったのでホテルではなく、ピラと呼ばれる別荘のような部屋を借りました。ここは本当にいい部屋で家具、キッチン、シャワー、トイレなどとても綺麗でした。夕飯は出ないのでみんなでMoreton 島に行く前に買出しをして、Moreton 島にもって行きカレーを作りました。ホテルよりピラの方が広くて伸び伸びできるような気がします。値段もそんなに変わらないのでお勧めです。

Moreton 島に行くまではフェリーを使います。まずCityにあるトランジットセンターから旅行会社がバスを用意してくれています。他にこのツアーに参加する人達と一緒に1時間くらいバスに乗り、フェリー乗り場まで行きます。そしてフェリーでMoreton 島へ向かいました。Moreton 島へ着いてまず感動することは、とても海が綺麗だということです。ペリカンや魚がたくさんいて、海がとても澄んでいました。

一旦、Moreton 島に立ち寄り、私達は荷物を置くことなくホエールウォッチングに出発しました。ホエールウォッチングは人気があり、当日予約では参加できないと言われていたのでホエールウォッチングだけは、このツアーを申し込んだときに予約しました。ランチはハンバーガー、フルーツ、サラダ、マフィンなどのバイキングで、鯨のいる場所へ向かう途中のフェリー内で食べました。でも、もしこのホエールウォッチングに参加するのであれば、ランチは軽めにしておいてください。ホエールウォッチングのフェリーはよく揺れるので酔いました。強い酔い止め薬も絶対持っていてください。それでも、



鯨、イルカが目の前に現れると感動しました。私達は運がよく鯨のジャンプも見ることができました。大きな鯨がジャンプするのはとても迫力がありました。

Moreton 島へ戻り、夜にはイルカの餌付けもしました。餌付けの方法は日本語でやってくれるし、Moreton 島は日本人観光客が多いので日本語ができる人も結構いました。イルカの餌付けのとき太ももまで海につかるので、水着など濡れてもいい服と餌付けの瞬間を写真にとってください。写真は1500円くらいでちょっと高いですが、思い出になるのでぜひ買ってください。ただ私はイルカに夢中でカメラを全く見ず、下向いた写真でした。なので、イルカの餌付けをやる時はカメラを絶対意識してくださいね。

2日目は人それぞれにやりたいactivityをやりました。ActivityとはMoreton 島でできる遊びみたいなもので、砂すべり、シュノーケリング、釣りなど様々なものがありました。ただ帰る時間、お金の問題もあるのでactivityはできて2、3個だと思います。私はサマースクールメンバーの一人とパラセーリングをしました。パラセーリングとはパラシュートを着けて、小さい船でひっぱってもらい海の上を飛ぶactivityです。かなり高いところまで上昇しますが、海がとても綺麗な分高いところから見る海はもっと綺麗なものでした。風も気持ちよく、絵葉書にあるようなとても綺麗な景色を見ることができました。船を操縦していたスタッフの方が、一旦足が海に浸かるまで急降下した後、また急上昇するというサービスもあってスリルも満点でした。高

いところが好きな方、より綺麗な海を見たい方にお勧めです。パラセーリングが終わった後、私は帰るまで、泳いでいました。チェックアウトした後は、荷物はコインロッカーに預けていました。途中何回でもコインロッカーは開けることができ、日本語も表示されるので大丈夫です。またお湯の出るシャワーもあるので、海で泳いでも大丈夫です。

この旅行は本当に楽しかったです。ホエールウォッチング、イルカの餌付け、パラセーリングなどどれも初めてだったし、貴重な体験でした。サマースクールメンバーとワイワイ騒ぎながらご飯を作ったりするのも本当に楽しいものでした。皆さんもぜひみんなで旅行に行ったりして共通の時間を作ってください。

(小村 美菜子)



モートン島というのはブリスベンから近い砂でできたきれいな島です。僕たちはOZ-Naviという日本人用の旅行代理店で1泊2日のツアーを予約していきました。このツアーは行くのと泊まるところだけで、あとはついてからいろいろアクティビティをプラスするって感じでした。ただホエールウォッチングは先に予約しなきゃできないということだったので予約していきました。

1日目はモートン島についてすぐまた同じ船に乗ってホエールウォッチングに行きました。船がものすごく揺れて、見えるポイントまで行くのにジェットコースターみたいな感じで若干怖かったんですが、ちょっと楽しかったです。でも、だんだんみんな船酔いになってきてポイントについたときにはほとんどの人がつらそうでした。でも、鯨がものすごくよく見えて、しかも何度もジャンプしてくれました！大興奮だったのですが、半分は船酔いと

戦っていました・・・。

島に帰ってからはみんなでビーチバレーをして遊び、そのあと野生のイルカ（でもちゃんと名前をつけてます）に餌付けをさせてもらいました。イルカを間近で見ることが今までなかったので感動しました。でも、少し寒かったです。その日はVILLAに泊まって夕飯はみんなでカレーを作ってみんなでワイワイしながら食べて楽しかったです。

2日目はカヤックに乗ったり、サンドバギーに乗ったりしました。カヤックは意外にうまく乗れて、楽しかったけど、腕がかなりパンパンになりました。

サンドバギーは全然うまく乗れなくて、途中で乗り上げちゃったり、ついていけなかったり大変だったけど楽しかったです！サンドバギーはできるところが少ないみたいなのでモートンに来たときは乗ってみるといいと思います。

モートンは値段もそこまで高くないし、いろいろなことができる（シュノーケリングやパラセーリングもできます）し、浜辺はきれいだし、おすすめです！

(新美 健太)

オーストラリアに来て4週目の週末にメンバー10人全員でモートン島へ一泊二日で遊びに行きました。モートン島は、ブリスベン中心から約2時間で着くことができる世界で2番目に大きな砂の島です。これぞリゾート!!って感じの島です。美しいビーチと手つかずの自然、それにたくさんのActivityがあります。

私たちは、着いてすぐホエールウォッチングに行きました。幸運にもたくさんのクジラを見ることができ、目の前でクジラのジャンプ一回ひねりを見たときはかなり興奮しました。想像以上にスケールが大きかったです。さらに、イルカにも遭遇する



ことができラッキーでした。しかし、このクルーズは強烈な船酔いとの戦いでもありました。出発前テンションが上がりすぎて船酔いのことをすっかり忘れ、バイキングでバカ食いののがいけなかったのです。みなさんがハウエルウォッチングをするときは出発前の食べすぎにはくれぐれも気をつけてください。吐きます、マジで！

この島の名物のひとつが野生イルカの餌付けです。日が沈んでから始まるので多少冷えますがとても貴重な体験をしました。モートン島での宿泊はVILLAと呼ばれる家を借りるのがいいと思います。広く、きれいで、キッチンもしっかりしています。私たちは、みんなでカレーを作りました。みんなといってもほとんど女の子にやらせてもらい、男どもは皿を割るなど完全に邪魔をしているだけでした。(耐熱皿を火にかけない様に！爆発します) みんなでワイワイしながら作ったカレーは最高においしかったです。いい思い出です。

二日目は、各々でアクティビティを楽しみました。私は、シュノーケリングとサンドバギーをしました。シュノーケリングでは海が透明なことに驚き、たくさんの魚が目の前を行き来するのを見ることができました。しかし、今でも思い出すと寒気がしてくるくらい寒く、海の中で足がついたときはさすがに焦りました。天気が悪くなかったこともあります。潜るには時期が少し早かったのかもしれませんが。サンドバギーは最高でした。まさにEXITINGです。お勧めできます。あと、海が苦手な人もバスケ、テニス、卓球などなどスポーツ施設が数多くあり自由に使えるので楽しめると思います。(道具の貸し出しあり) 私たちは、バレーボールを一つ持ってビーチでビーチバレーをして盛り上がりました。

とにかく、この島は自然の美しさ、大きさを感ずることのできる場所でした。本当にいい思い出をありがとうモートン島。最後に、OZ-NAVIを紹介したいと思います。ここは、全員日本人スタッフの日系旅行代理店です。シティーのエリザベスストリート沿いにあります。とても親切な人ばかりなので、旅行のことで分からないことがあったら相談に行ってみるのもいいかもしれません。

(水野 陽一朗)

ゴールドラッシュ

■ 私達は、ゴールドコーストに体験サーフィンをしに行きました。これはOZ-NAVI (Level 2, 171Elizabethc Street) のツアー(日本人インストラクターによる教習)で申し込んで電車で行き、ホテルは一人45ドルの部屋に泊まりました。サーフィンをし終わった後に冷水シャワーしかビーチになかったのでホテルを予約して本当に良かったと思いました。私たちが行ったときはまだ寒くてマリンスポーツをやるには早すぎると思いました。しかし、サーフィンはとても楽しかったです。みんな最後には何回か立てていたので誰がやっても楽しいと思います。ゴールドコーストへ行ったらサーフィンはやるべきです。



(櫻木 友佳子)

■ ゴールドコーストはブリスベンから近く、値段の面で見てもバスと電車の運賃を合わせて片道10ドルほどだったと思う。ゴールドコーストにきてまず思ったのが、ブリスベンよりも日本語が多く用いられていることだ。観光地として有名なこともあり、日本語のコンビニやラーメン屋などもおおくあった。また海が有名なだけあってとてもきれいだった。水がとても澄んでおり砂も細かくてきれいなので歩くと「きゅっきゅっ」と音がした。僕たちはここでサーフィンをした。ゴールドコーストはとても風が強くサーフィンをするにはとても良い環境だとおもった。最初はなかなかバランスをとることが難しくひっくり返ってばかりだったが、だんだん慣れてゆき最終的には全員がボードの上に立つことができた。最初はサーフィンの後日帰り



で帰ろうという計画もあったが、ホテルでないと温水が出ない点、普段しないような運動をして体への負担が大きい点、帰るためには時間的にかなり厳しい点を考慮に入れるとホテルで宿泊したことは正解だったと思う。サーフィンをやった次の日の朝に海に泳ぎに行った。朝にもかかわらず水は冷たくなく泳ぎやすかった。また朝にもかかわらずオーストラリア人のカップル数組がいちゃいちゃしていた。また夜のゴールドコーストはとても危険がおおかった。大きな音を出して走る車や叫びながら動く変人などがうろちょろしていたので、絶対に一人での行動はやめたほうがよく二人以上でもなるべく外出しないほうが良いと思う。

(藤井 裕太)

サンシャインコースト



ブリズベンの観光地もほとんど行ってしまっていて行ってなかったのがサンシャインコーストだったので最後の週末に行きました。

Caloundra という一番ブリズベンに近いところに行っていてあまり期待をしていなかったのですが予想以上にきれいな海で泳ぐにはゴールドコーストより良いポイントです。遠浅がずっと続いていて奥まで歩いていけるのが楽しかったです。蟹や貝殻やきれいな砂浜もあり、最後に海の景色を楽しむには良いと思います。市場も少しありピーズアクセサリーなど他では売っていない可愛いお土産がありました。そこで食べたカレーは美味でした。

(櫻木 友佳子)

ローンパインサンクチュアリー



私はオーストラリアでやりたいことがたくさんあった。コアラを抱っこして写真を撮ること、カンガルーに手でエサをあげることがその中の二つである。プリズベンシティからバスで行くこと、約45分。

ここは世界的に名高い保護区らしい。生まれて初めて本物のコアラを抱っこした。ちょっとくさい(-_-;)だが、めっちゃ可愛い(>_<)動物好きの人は行くべし!!カンガルーにも直接手でエサをあげた。これもまた、めっちゃ可愛い(>_<)ここには他にも様々な鳥やウォンバット、ディンゴ、エミューなどオーストラリアを代表する動物たちがいた。日本の動物園とは一味違った、オーストラリアならではの動物を見ることができて良かった。すごく良い思い出になった。

(川田 里絵)

僕は友達と「ローンパイン・コアラ・サンクチュアリー」に行ってきました。プリズベン



のバスストップから約30分でつきます。ついですぐの印象は「え？ここがそうなの？」って感じぐらいほとんど自然で、驚きました。入場料は学生料金で\$17でした。

中に入ると野性の七面鳥やトカゲなどが普通にあっていて、日本とは違うな～って思いました。ここではオーストラリアを代表する動物たちがほとんどで、コアラやカンガルー、ワラビーはもちろん、エミュやウォンバットなどもいました。

ここで僕が一番よかったと思うのはカンガルーに餌をあげられたことと、コアラを抱っこできたことです。カンガルーは間近で見るとちょっと怖くて、おっさんみたいでした(笑)。コアラは毛がちょっと硬くて想像とちがったけどやっぱりかわいらしくて抱っこできてよかったなと思いました。

ここにきて「あ～オーストラリアに来たんだな～」って初めて実感しました。動物好きな人は絶対楽しめると思います。ぜひ行って下さい。

(新美 健太)

ナイトサファリ

3週目の土日に、みんなでゴールドコーストに行き、そのうち3人でナイトサファリツアーに行くことにしました。ツアーの申し込みはOZナビで行いました。ツアーには日本語ガイドと英語ガイドがあり、英語のほうが40ドルほど安かったので、そちらに申し込み、ホテルに泊まりたい場合はまた別に申し込まなければならなかったのですが、浮いたお金で1人40ドルの安ホテルを予約しました。英語ガイドはあまりに速くて全く聞き取れませんが、動物はちゃんと見れたので問題ありま



せんでした。

英語ガイドのほうは、コアラを抱っこしての記念撮影が含まれていませんでしたが、その場で15ドル支払えばできたのでそれを考えても英語ガイドの方がお得だったかなと思います。そこでは他にカンガルーの餌付けと夜行性動物の見学、アボジリニーのダンスなどを見ることができ、赤ちゃんワニを抱っこすることもできました。

ちなみに私たち3人が泊まったISLANDER RESORTは安かったけど古かったです。残りのみんなはプラス5ドルで格段によいVIBEというホテルに泊まっていたのでそっちがうらやましかったです。

(井上 弓)

博物館 & 植物園 & City hall



すべてCityの近くにある簡単に行け、無料です。博物館は恐竜の骨、動物の剥製、虫、乗り物、水晶、金、歴史などジャンルがたくさんあり結構長い間没頭していました。写真を撮れるコーナーもあり楽しめます。お土産店

や有料コーナーもあります。私は、恐竜目当てで行ったのですが、あまりなかったので少し残念でした。植物園は、マングローブや小さな蟹、変な木、変な実

などなどの多い場所で植物の名前の書いていないものも多く、大学に隣接しているので大きな大学の庭なのだと思いました。しかし、海にも隣接しておりきれいな景色や動物園にいるオーストラリアの鳥たちもほとんどここで見る事が出来ました。CityHallは時計台に上ることも記念コインを作ることもできます。時計台は、平日は3:30まで金曜日は3:00まで土曜日は2:30まで上ることができ日曜日は上れません。館内も写真の撮れるような美しい建築物です。

(櫻木 友佳子)

リバフェス

初めてリバーフェスティバル(リバフェス)の中の目玉であるリバーファイヤーの説明を受けたとき「とてもとても大きな花火大会で絶対に見に行ったほうが良い。」といわれた。ただ、過去の経験からどこの人でも地元のことは大袈裟に言うてしまうものだと思っていたのでそこまで大きな期待は抱いていなかった(ひねくれた考え方ですいません)。当日は会場であるブリスベン川の隣の公園には人がごった返していた。会場内に入る際に、アルコールの持ち込み検査を受けジュース類は全部没収された(水は持ち込めた)。会場には比較的早い時間帯に行ったのだが、良い場所はほとんどおさえられており少し見えづらい場所から眺めることになった。食品は持ち込み可能ということなので会場から30分ほど歩きシティーの中心まで歩いて買いにいった。

ほんのり空が暗くなり始めたころにリバーファイヤーは始まった。まずは戦闘機のショーがありすご



い低空飛行をして爆音を響かせた。それから花火がスタート。花火はすべて音楽に合わせて打ち上げられていた。オーストラリアの花火は打ちあがってから爆発までがかなり早い。その分日本のものと比べて小さかったりほかにもいろいろな弊害があるのだが、音楽に合わせて打ち上げるということに関しては日本の物よりも優れていると感じた。また花火がシティーの中のビルの屋上からも打ちあがった。このような花火を見たことはほとんどなかったのだが、全体を通してみると、リバーファイヤーは花火大会というより花火を含めたショーという感じを受けた。日本ではできないようなものも多いので、リバーファイヤーは見るべきだと思う。

(藤井 裕太)

BBQ



オーストラリアに行って一番の思い出は、ホストファミリーの方が開いてくださったパーティーです。10人全員が招待され、日本の形式とは違った立食パーティーでした。5時ごろから始まり、みんなでお酒を飲んだり、ホストファミリーの方が作ってくださったBBQを食べたり、買出しで買って来たお菓子を食ったり、とにかく食べて飲んで騒ぎまくりました。もちろん会話は英語のみ!(多少日本語もあったが・・・)

ベトナム人の人たちも何人かいて、日本のこと、ベトナムのことも話しました。途中からホストファミリーの方が音楽のボリュームを上げてダンスを始めてみんなでダンスして、笑って、はしゃいで写真も撮って、日本では味わえないオーストラリアンパーティーを楽しみました。サマスクでしか味わえ

ない本当に最高の思い出になりました。

(篠田 晃一)

私のホームステイママが私たち 10 人のために歓迎パーティとお別れパーティを開いてくれました。両方とも BBQ でした。オーストラリアの人達は本当に BBQ 好きです。

一般的に日本でお酒を飲むというと居酒屋で座ってカンパ〜イ! ですが、ママが開いてくれたパーティではノリのよい音楽をかけながら立ちながらダンスをしながら飲んだり食べたりしました。パーティの最後の方になると壊れかけた人が何人かいましたがそれだけ楽しい時を過ごしたということでしょう。



(水野 陽一朗)

映画

オーストラリアでやりたいことの一つ。英語で映画を見ること。どれだけ理解できるのか、試してみたかった。City, SouthBank, GardenCity, SunnyBank などに映画館があると聞いた。家が近く、火曜日は all \$6.50 ということもあり、SunnyBank の映画館へ行った。アニメを見たのだが、感じたことは…笑いのツボが違う(ー;) 英語の方は、だいたい内容はつかめたかなと思う。英語は速くて聞き取りにくい部分もあったが、映像がヒントになり、だいたい理解できた。映画を見ることは英語の Listening の勉強になる。日本でも続けたいと思う。



(川田 里絵)

一人旅について



私は9月の最後の方にシドニーへ一人旅に行ってきました。一人旅と言ってもシドニーに行けば岐大の先輩がいて、私が滞在した3日間その先輩にお世話になりました。

初めはシドニーに先輩がいると言っても実際に行くことについては迷いました。ブリスベンからシドニーまでは飛行機で1時間半で行けるのですが、実は私はこのサマースクールでオーストラリアに行ったのが初めての飛行機で、日本の国内線にも乗ったことがありませんでした。だから1人で飛行機に乗るといのはかなり不安でした。列車や長距離バ

スという手段もあったのですが、昨年シドニー旅行した人も飛行機で行っていたし、列車などは十時間以上かかるということで飛行機がやはりベストだと思いました。不安に思いながらも行こうと決心したのは、それまで休日はすべてサマースクールに参加したメンバーと一緒に過ごしていて、私はみんなに頼ってばかりだったし、せっかくオーストラリアに来たのだから1人で何かやり遂げたいという気持ちになったからです。

不安に思っていたオーストラリアでの国内線は、実際は全く困難なものではありませんでした。チェックインの人の英語はなかなか聞き取れませんでした。が、“window”と聞こえたので“window”と言ったら窓側にしてもらえました☆

私の場合はシドニーに先輩がいましたが、そうでもなく一人旅を試みるのはとても貴重な経験になると思います。いろんなところで出会いがあるし、いろんなことを考える良い機会になるはずですよ。

私みたいにサマースクールが初めての飛行機という人でも大丈夫です！航空券はNaviTOUR(日系旅行会社)で頼めばOK ☆ちなみに私は出発の2週間前に頼んで、シドニーまで往復A\$240(日本円で2万くらい)でした。もし行くと決めたら、航空券は安いものから売れるらしいので早めに申し込んだ方がお得です。それとプリズベンシティから空港までの交通手段はバスと電車があります。私は行きはホストファミリーに送ってもらい、帰りは夜の9時くらいだったので電車はなく、バスで帰りました。航空券を頼むときは行き帰りのバスや電車の時刻も考えた上で申し込みましょう。

(安田 悠里)

私は最後の日曜日に一人で電車とバスを乗り継ぎ、スキューバダイビングをするためにゴールドコーストへ行った。生まれて初めてのダイビングをオーストラリアの海で。水は透きとおっていて、魚がたくさんいてとてもきれいだった。私はライセンスを持っていなかったもので、体験ダイビングに参加した。これはインストラクターが常にそばにいてアシストしてくれたので安心だったが、ライセンスがあればもっと自由に潜れるという事を聞き、ライセンスを取りたいと思った。また、オーストラリアの季節は冬から春への変り目。水の中は寒かった。次にオーストラリアに行くときは、夏、ライセンスを取得して、もう一回ダイビングをした



と思う。

今回は一人で行ったという事で、不安がいっぱいあった。今まではみんなと行動を共にしてきたので、自分でどうにかしなければ、という危機感はあまりなかった。だが、今回は一人。駅員さんやバスの運転手に尋ねたり、乗客に尋ねたり、色々な人と会話ができた。帰りの電車で一緒になったおばあさんに思い切って話しかけてみた。おばあさんの降りる駅まで世間話をした。見ず知らずの人と話ができ、なんか嬉しく感じた。私はオーストラリアで一番やりたかった、ダイビングをして、一人でプチ旅行までして、とても楽しい思い出になった。

(川田 里絵)

このサマースクールの間に、私は一人旅を試してみました。いつもサマスクのメンバーで旅行をしても、やはり日本語を使ってしまおうし、新たな出会いも望めない。また、少し自信のついてきた自分の英語力を試してみたいと思ったこともあり、一人旅に行ってみることにしました。行き先は、前から行ってみたかった『グレートバリアリーフ』。Cityにある日本の旅行会社の人にいろいろ聞いて、飛行機とバス、フェリーを使って行くことにしました。出発の朝、4:50にホストファミリーの家を出て、電車を使ってプリズベン空港へ。空港ではアナウンスを必死に聞いていました。アナウンスでは私が乗る飛行機の搭乗ゲートが変更になったことを言っていて、しっかり聞き取ることが出来てうれしかったです。そのことを係員に聞いてみたりもしました。そして、飛行機に乗り1時間ほどかけて、自分の行きたい島に一番近い空港に到着。その後現地の人に教えてもらいながら、フェリーを予約しました。バスとフェリーを使って1時間半。目的の

島に到着しました。

島はとてもきれいで、1人で島を探索し、写真を撮ってまわりました。夜はシェアルームをかりたので、部屋の人にも話しかけたりして、友達になりました。帰りも順調にフェリー、バス、飛行機を使って無事に帰ることが出来ました。この旅では本当に頼れるのは自分の英語力のみで、実際に自分の英語力が通じているのか不安でしたが、たくさんの優しい人たちに出会うことが出来、いろいろと手伝ってくれました。この旅の目的は英語を使い、たくさんの人と会うことだったので、大成功だったということが出来ると思います。たくさんの現地の人の手助けと、自分が積極的になれたということが成功の大きな手がかりになりました。来年サマースクールに参加しようと考えている方はぜひ1人で旅をす

ることをお勧めします。とてもいい経験が出来るし、自分に自信が持てるようになりますよ。



(柴田 利佳)

天気・服装について

- ・オーストラリアの八月、九月は日本の四月、五月のような気温(15~25度)。特に八月は朝、晩かなり冷えるので羽織るものは必要。コートまでは要らないと思う。八月、九月の前半は寒暖の差が大きいのので気をつける。2人風邪をひいた。九月後半のなるとT-シャツ1枚でも大丈夫。
- ・雨は基本的にあまり降らない地域。私たちが行ったときはよく降った。オーストラリア人は傘を持つ習慣が日本人ほどないのでホームステイ先にな

いかも・・・雨に濡れたくない人は折り畳み傘を持っていくか、向こうで買うか。

- ・かなり乾燥しているのでリップクリーム、保湿クリームは必需品。乾燥のため喉を痛めた人がいた。
- ・気温が上がらない日でも日差しは強いので気になる人は普段から日焼け止めを塗ったほうが良い。まして、海に行くときは必携！サングラスも！

交通について

- ・基本的に通学はバス。場所にもよるが本数は多い方だと思う。ブリスベンシティに行くときはバス専用レーンがあるため距離のわりに早く着く。(大学から15~20分)
- ・バス、電車は両方ともゾーン制。1ゾーンA\$2.10, 2ゾーンA\$2.50, 3ゾーンA\$2.90. 10

回分のカード(テントリップ)が便利。

- ・バスのボタンには注意。分かりにくい。
- ・電車は、ゴールドコースト、サンシャインコーストに行くときに使うぐらい。車内アナウンスはかからない。

失敗談

● FOOD SHOOK

メンバーのうち5人がホームステイファミリーに日本食を振舞った。が、成功した(ファミリーの口に合った)のはたった一人。作った人はファミリーの感激の涙を期待していただけにショックは大きかったみたい。作るときはまずファミリーの好みを聞こう! 意外に豆腐がダメな人が多い。

● 爆発 in Moreton Island

夕飯の米を炊くとき鍋がなかった。見ると耐熱と書かれたガラスの容器が食器棚のなかに。男4人思う「耐熱だからいいだろ〜、たぶん」。火にかけ3分後爆発! 男4人固まる。直ぐに女の子呼ぶ。叱られる。もしモートン島で耐熱皿を使うときはレンジを使ってください。お米なら8分で炊けます。決して「耐熱」の文字に惑わされないように!!

● バスのドアに・・・

オーストラリア人はバスを降りるときかっこよく運転手に「Thank you!」と手を上げながら降りていく。それにチャレンジした人が律儀にも出入り口付近に立ち止まって振り返りながら言ったばかりにドアに挟まれた。どうか「Thank you!」と言うときは歩きながら言ってください。立ち止まるな!

● ティムタムは計画的に

オーストラリアの名物チョコレート「ティムタム」。それをお土産として買いすぎ空港で重量オーバーと言われ、持ってきた服を全部着て帰って来た人(funny boy)がいる。お土産は計画的に。

お・わ・り・に

今回サマースクールに参加するにあたって、多くの不安がありました。私は、海外も飛行機もホームステイも初めての体験だったからです。仲のよい友人を誘ってみましたが、失敗。しかし、大学入学以来の目標、そのために日々バイトに励んできたので一人であろうと参加する決心を固めました。

街にも学校にも日本人がたくさんいたので日本語を耳にする機会はとても多かったです。しかし、ホストファミリーやクラスの留学生、バスのドライバーなどと自分をつなげるのは英語だけでした。なので、でたらめだろうと英語を使わなければコミュニケーションが成り立たない場面も多かったです。そしてピンチな時には自分の乏しい英語力を駆使して何とかしようとながらんでいる自分がいました。それは自分自身に大きな自信を与えました。

この旅は、外の世界を見ると同時に自分自身を見つめる絶好の機会になりました。

今回出会った9人のメンバー、ホストファミリー、クラスメート、先生・・・全ての人に感謝します。

(井上 弓)

海外へ行って英語や異文化に触れること、それが私の予てからの夢だった。今回の短期留学で一つ夢を実現した。オーストラリアに行く前、この短期留学についてアンケートに答えた。どうなれば成功で、どうなれば失敗か。私はこの5週間、とにかく楽しんで、英語に触れて、他国の友達を作って、やりたいことは全部やって…前向きに何でも取り組んだつもりである。今、振り返って思うのは、本当に行って良かったということ。この留学はもちろん大成功!! オーストラリアでの日々は毎日が新鮮で、張り合いがあつてとても充実した日々だった。写真を見ると、その時のことが昨日のこのように思い出されてくる。でも、この短期留学はただ楽しかったというだけではない。初めて日本を出て、他

国、オーストラリアに行って、自分はどうか成長し、何を得たのか。英語は国際語だと痛感した。日本は日本人だけ。だから、英語を話せなくても日本語があれば大丈夫。だが、オーストラリアは中国、韓国、ベトナム、中東、ヨーロッパなど様々な人がある。

その人たちとコミュニケーションをとるには英語しかない。自分の英語力が不十分なために、相手の言うことが理解できなかつたり、言いたいことが伝わらなかつたり、悔しい思いもあった。英語に対する考え方が変わったと思う。英語を話せることに越したことはないが、英語力がなくても、いざとなればどうにでもなる！ジェスチャーや絵、筆談など伝えようと頑張れば、相手も聞いてくれるし、理解しようとしてくれる。言葉が分からなくても友達ができるのだなと思った。初めの頃、英語がほとんど聞き取れなかつたけれど、なんとか友達を作ることができた。今まで、外国人がいるとなんか怖いと思っていた。だが、オーストラリアでは自分が外国人。それに周りには色んな国の人がいる。いて、当たり前なのだ。今までと全く違った環境の中で生活して、言葉とか肌の色とか目の色などは関係ない。世界が広がったと思うし、視野が広がったと思う。この5週間で学んだこと、体験したこと、素敵な思い出は一生の宝となるだろう。これから先、忘れることはないだろう。この短期留学を通じて新しくやりたいことが見つかったし、いろんな意味で成長できたと思う。オーストラリアに行って良かった。最後になりましたが、お世話をしてくださった太田先生、飯沼さん、伊藤さん他すべての方々に感謝します。ありがとうございました。

(川田 里絵)

サマースクールは自分にとって素晴らしい経験になったと思う。親、友達と離れた



こと、海外で短いながらも生活したこと、そしてもちろん英語で話したこと、全てが自分を成長させてくれたと思う。あっちでしかできない体験は行ってみなければ分からないものなので本当に参加してよかったと思う。このサマースクメンバ－とはこれからも付き合っていけると思う！

(篠田 晃一)

申し込んでから実際に向こうに行くまでは「勉強のためだからつらいだろうけど我慢しよう」とおもっていたが、とても楽しい時間を過ごすことができた。初めは5週間でも長いと感じていたが、帰国直前にはもっと長くいたいと感じていた。今回の参加者は1～3年生で男子が4人、女子が6人だった。自分は一年生ということもありはじめは仲良くやっていけるのかなり不安だった。しかしお互いに敬語を使わずに素直に話すようになったことで、某テレビ番組「あ○のり」のようなどても楽しく有意義な旅ができた。5週間の間には何度も落ち込んだことがあった。しかし、同じ留学生である外国人の子は日本人にはないような括弧たる自信、絶対にあきらめない姿勢、強い行動力を持っており、僕はその子を見習いまた目標にすることで自信を回復することができた。この5週間のプログラムのおかげで英語に対する自身や力だけでなく、外国人の友人、外国での生活の経験、オーストラリアの町の仕組み、大切な仲間などとても素晴らしいものを手に入れることができた。1年生の間にこの経験をできたことは、まだ始まったばかりの僕の大学生生活を決めていく視点を大きく変えたように感じる。今回このプログラムに参加することができたのは多くの人の協力があってこそである。その方たちに感謝したい。

(藤井 祐太)



短期留学(サマースクール)参加者アンケート

1. 先方の大学での研修について

a. 履修した授業の内容(科目, 授業の概要等)とそれぞれの満足度を1~4点で書いてください。

平均	Writing (エッセイ, 日記)	3.4点 (回答10人)
	Speaking (テーマについてディスカッション)	3.9点 (回答8人)
	Listening (ニュース・映画の聞き取り)	3.3点 (回答8人)
	Reading (長文を読む)	3点 (回答6人)
	Grammar (文法の説明)	2.4点 (回答5人)
	SAC (Self Access Computer: 自由に映画・読書で勉強)	4.3点 (回答4人)
	Computer lab (パソコンとヘッドホンでクラスメートと会話)	2.7点 (回答3人)
	Essay (小論文)	4点 (回答1人)

b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1~4点で書いてください。

平均	ミニ運動会	2.7点 (回答7人)
	シティツアー	3点 (回答1人)
	ピクニック	3点 (回答1人)

c. 先方の受入れ体制について

- 生活面でどんなことをしてくれましたか?
 - * 空港への(からの)送迎
 - * ホームステイの案内
 - * 道に迷ってホストファミリーと連絡がとれなくなったときに助けてくれた。
 - * 困ったことがあったときのサポート
 - * オーストラリア出国の案内
 - * ホストマザーが生活の大部分をサポートしてくれた。

- * ホストマザーが3食を作ってくれて、バスの使い方を教えてくれた。いつも気にかけてくれて、TVやDVDなど誘ってくれた。

・勉強面でどんなことをしてくれましたか?

- * 授業, アドバイス
- * 宿題を見直してくれた。
- * 毎日英語の日記をみてくれた。
- * 日本へ帰ってから勉強できるサイトを教えてくれた。
- * 日本で英語を教えていたことがあるらしく、日本人にわかりやすく教えてくれた。
- * 日本に帰ってからの英語の勉強方法について教えてくれた。

・その他で頼りになる人はどんなことをしてくれましたか?

- * アクティビティをしてくれた。
- * アクティビティの宣伝
- * ブリスベン見学ツアーの引率
- * わからないことや困ったことがあったら連絡してと言ってくれた。
- * ゲームやバスケットなどを一緒にやってくれた。

d. 留学期間について

適当	4人
長い	0人
短い	6人

e. その他授業について困ったこと, 先方に対する要望等自由に記入してください。

- * 日本人がクラスにかたまっていた。
- * レベルが同じだったり, そんなに多くの国の人がいるわけではないから仕方ないのかもしれないけれど, 1クラスの半分近くが日本人というのはあまりよくないと思う。
- * 最初, 聞き取りに困った。それ以外は, とてもおもしろい授業だった。

- * もっと先生と会話をしたかった。
- * 英語クラスは文法に関してはとても簡単に感じた。だが、Listening や Speaking のレベルは自分に合っていると思った。Reading の授業は自習みたいな形だった。せっかくネイティブの先生がいるのに、長い時間自習の形で各自 Reading をするというのは、時間がもったいないと思った。もっと、Speaking, Listening を中心とした授業が良いと思う。

2. ホームスティについて

1 部屋約 6 畳4人 8 畳1人 20 畳1人

a. 部屋にあった設備を記入してください。

ベッド, 机, 椅子, クローゼット, タンス, ハンガー, ライト, ゴミ箱, 時計, 鏡, 引出し, 押し入れ, 個人のシャワールーム, 洗濯干し竿, テレビ, DVD デッキ, 地球儀, テレビ・電話・バス・トイレは部屋にはついていなかったが, 自由に使わせてもらえた。

b. 食事はどうしていましたか?

- * 平日はホストファミリーが作ってくれ, 一緒に食べた。週末は泊まりで出かけることが多かったので, 友達と外で食べるがあった。
- * ホストマザーが作ってくれた。
- * 平日はランチを作ってもらった。週末, 昼食は外で食べた。朝晩は基本的には家で食べ, 時々夕食を友達と食べていた。
- * 平日, 朝は自分で作ったり, 作ってもらったりした。昼はサンドウィッチを作ってもらい, 夜は家で食べていた。休日は, 毎日外へ出かけていたので, ほとんど外食だった。
- * ランチは, ホストファミリーが用意してくれた食べ物・ジュース・おやつを持っていった。朝食は, ホストファミリーの家に常備されているコーヒー・パンやスコーンを自分で調理して食べていた。夕食は, ホストファミリーに作ってもらったものを一緒に食べていた。時々, 外で食べたいときは, ホストファミリーに知らせてから食べに行っていた。
- * 朝は自分でシリアルを食べるか, トーストを焼いてもらって卵等もつけてもらった。昼食は, 毎朝サンドウィッチを作ってくれるので, それを食べた。夕食は, 基本的には家で食べたがた

まに友達と外食をした。

- * 朝はシリアル, 昼はママのサンドウィッチ, 夜は家族みんなで食事。
 - * ホストファミリーが全て作ってくれた。外食するときはあらかじめ知らせておけば何も問題なかった。
 - * 朝は一人でトーストを準備して, ほとんど一人で食べた。昼食・夕食はホームスティ先が準備(時々外食)。
- c. ホームスティ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。
- * テーブルがなく, お皿を足のにのせて食べていたこと(慣れたら大丈夫だけど, みんなそうやって食べていた)。
 - * ホストマザーやファーザーは, 朝4時や5時から仕事のときがあるため, 早く寝てしまったり, シャワーの時間などいろんな面で気を遣ってしまった。洗濯物もホストマザーが洗ってくれたのはよかったけれど, どれ位の頻度で出しているのかわからなかった。
 - * 蛍光灯が少し暗かった。野菜がもう少し食べたかった。
 - * 枕が合わないと感じた。漬物が欲しかった。意外と米はよく食べられる。
 - * 最初の頃は, 英語が通じないことで落ち込んだ。
 - * 洗濯が週1回だったので, 着替えに少し困った。
- d. ホームスティについて良かったこと・悪かったこと, 要望など記入してください。
- * 朝・昼・晩と一日3食おいしいご飯を作ってくれた。私のホームスティファミリーはマザー1人だったので, 夕食のときなど2人だけで少し寂しかった。時々, 娘夫婦や子供が家に来て, そのときはにぎやかで良かった。だが, いつ・誰が来るのかなど予定を伝えてほしかった。ホストマザーはイタリア人だったので, 人が来た時やニュースなどで度々イタリア語を使っていた。
 - * 積極的に話かけてくれたり, 映画(DVD)など誘ってくれて良かった。
 - * 5週間しかなかったけれど, 本当に良い経験が得られたと思う。英語を話せる環境なので, 英語の勉強するにはベスト。オーストラリア人のやさしさ・オーストラリアの文化にも触れ

られる。

- * とても良くしてくれた。マザーの友達の集まりや、サウスバンクや買い物などいろいろなところへ連れて行ってくれた。風邪を引いたときもカーテンを取り付けてくれたり、毛布を増やしてくれたり、菓をくれたりした。洗濯物を干す台を貸してくれた。
- * みんな親切で、ゆっくりと話し掛けてくれた。ホストファミリーのみならず、おじいさん・おばあさん・叔父さん・叔母さんに、兄弟姉妹まで合わせてもらって楽しい思い出ができた。
- * バス停まで距離がかなりあったので、毎朝バス停まで送ってもらった。ファミリーはマザー1人だったので、長く話すことができなかった。
- * みんなとても親切だった。学校から帰っても英語が聞ける・話せる! 困ったことがあったら相談できる。食事に困らない。帰りが遅くならないよう気を遣った。
- * 洗濯は毎日やってくれて、食事も毎日作ってくれて、おもしろくてやさしい家族で良かった。
- * ホームステイの場所は、ゾーン5で少し遠く交通費もかかったけれど、バス停はそんなに遠くなく、広々とした所でよかった。ホストマザーもファーザーもとても優しくかった。息子は2人いたけれど、あまり会話ができなかったのが残念。マザーとファーザーが作ってくれる夕食はおいしかった。
- * 集合場所への送り迎えや食事、特に私の場合は、洗濯の世話をしてくれたことが良かった。遅くなるとき、夕食をスキップするとき、連絡することが面倒だった。でも、日本に比べて自習(?) (個人主義?) なので、私は自由にさせてもらったと思う。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

トラブル

- ①夜、自分の降りるバス停がわからなかった。
- ②バスのナンバーが間違っていることが多々あった。

相談相手

- ①バスの運転手さん
- ②バスのドライバー

対応

- ①終点まで行った後、引き返してくれた。
- ②戻ってくれて、元のバス停に降ろしてくれた。もう1回のおときは、見知らぬところに降ろされ、ホストマザーに電話し、助けてもらった。

4. 所要経費について(平均)

- ・支出総額 537,508 円

(内訳)

- ・参加費(航空費・宿舍費含む) 419,600 円
- ・食費 21,875 円
- ・保険料 12,710 円
- ・その他 100,875 円

参加費について

高い3人 適当6人 安い0人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

(学内の諸手続きについて)

- * 学内でできたので、簡単で安心だった。
- * 今回海外に行くのが初めてだったので、航空券や保険のことなど生協でほとんどの手続きをすることができ、便利だった。
- * 学務係にガイダンスを休むことを言いに行ったが、サマースクールを知らない人がおり、とても時間がかかって、面倒だった。

(出発前の事前英語研修について)

- * チャックとアンディ(岐阜大学の交換留学生で英語の講師を務めてくれた)は、すごく良くしてくれたと思う。私たちは夏休みにも研修してもらって英語に触れることができ、良かった。
- * やっていて良かった。研修でやったことがよく日常生活で出てきたので、役立った。
- * 会話中心の授業をしてもらい、とても良かったと思う。日本語禁止の授業は、初めは厳しかったが、とてもためになる授業だった。ネイティブに教えてもらうことで、発音にも注意できたり、日本・イギリス・アメリカでの文化の違いにも触れることができ、良かった。

- *あまり参加できなかったけれど、とてもためになった。
- *チャックとアンディは、とても良くしてくれた。英語そのものもそうだが、事前研修によって、自分の言いたいことを伝えようとする気持ちを引き出してもらえたと思う。
- *とてもいい時間だった。英語の勉強にもなったし、チャックとアンディにも会えたし。それに、サマースクールのメンバーとも仲良くなれる。要望としては、3人グループになって一つのテーマについて話し合うようなSpeakingの練習も必要だと思った。
- *すべての授業には参加できなかったけれど、とてもためになる授業だった。もう少しSpeakingの練習がしたかった。
- *英語の事前研修は出発前の良い機会だったけれど、そのときはまだ一緒に行くメンバーとあまり仲良くなれなかった。仲良くなっていたら、もっと研修が楽しいものになっていたと思う。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- *私にとって、この短期留学が初めての飛行機、初めての海外ということでとても良い経験になった。海外への憧れと英語が話せるようになりたいという気持ちで参加したこのプログラムだが、一番実感としてあるのは、一緒に行ったメンバーが最高だったということ。この10人がいたから楽しめたという気がする。でも、いつも日本人と行動して、土日にホストファミリーと過ごせなかったのは、少し惜しい気がする。そう思うともう少し期間が長かったら、よかったなと思うが、いろいろ体験したことを早く日本にいる家族や友達に話したいという気持ちもあり、5週間というのは、初めて海外に触れるにはちょうど良い期間(長さ)だった。
- *全てが初めての経験で、最初はなかなか英語が思い浮かばず、人にも話し掛けることができなかったけれど、5週間後には堂々と知らない人にも英語で話し掛けられるようになって、本当にうれしかった。毎日の英語の授業のおかげで、Listeningがレベルアップできたと思う。また、英語を話したり・聞いたりすることに全く抵抗を感じなくなった。むしろ今ではもっと英語に

触れていたいと思うようになった。今後も英語の勉強を続け、交換留学にも参加できればいいと思う。今までにない貴重な夏を過ごすことができ、本当に参加して良かったと思っている。

- *最初、不安もあったが、行ってみて自分に自信がついたと思う。英語に対する自信もついたが、何より「自分の意見をしっかりと持ち、それをみんなに言う」ことがいかに大切かを肌で感じてきた。そして、あつという間だったが、ホームステイの家族・クラスメート・船の中で出会った少年を含め、たくさんの人たちと出会えたことがとてもいい思い出となっている。メンバー10人とも出会えたし!!本当に有意義な5週間だった。
- *向こうに着くまでは「勉強のためだから我慢して英語をがんばろう」と思っていたが、すぐに他の参加者(岐大からの)と仲良くなれたので、とても楽しく過ごせた。外国人の友達もすぐ出来た。初めは言葉が通じるか不安だったが、ほとんどのことは通じることができた。外国人の友達とは日本に帰った後もe-mailを通じて連絡を取っている。一緒に行った参加者とも、とても仲良くなった。
- *最初は仲の良い友人もいなかったもので、不安でいっぱいだった。でも、一緒に行った9人はもちろん、オーストラリアの家族やクラスメートともとても仲良くなれ、楽しい時間を過ごすことができた。今回、私は初めて日本を離れ、家族とも初めてこんなに長い時間離れた。異文化に触れ、その違いにびっくりすることも多々あったが、全てが新鮮で貴重な体験となった。
- *短期留学に参加して、ただ語学を学べただけではなく、異文化にふれることで視野も広がったと思うし、日本にいただけでは経験できないことをたくさん経験できて、本当にすばらしく、楽しく、ためになった5週間だった。
- *私は生まれて初めて海外に行った、最初は、言葉の通じない世界に行くということで、不安ももちろんあったが、オーストラリアとはどんなところで、どんな人がいるのだろうか、学校やホームステイファミリーはどんなだろうというワクワクとした楽しみに思う気持ちの方が大きかったと思う。英語力がついたことは自分であまり実感しないが、リスニング力が少しだけ上がったように思う。だが、オーストラリアでは日本

にいたら味わうことのできない多くの貴重な体験をすることができた。私にとって忘れられないひと夏の体験になった。

- * とても楽しかった。授業は日本人ばかりで少しつまらなかったが、友達ができて昼ごはんと一緒に食べたりするのが楽しかった。土・日はいつも旅行にメンバーと行って、忘れられない思い出ができた。ホストファミリーといろいろなところへ行ったし、子供たちとも話せるようになっていったので、良かった。
- * 高くついたけれど、すばらしい体験になった。英語を使うことにためらいがなくなったと思う。まだ1年生なので、これからも積極的に海外に行くことを考えていきたい。
- * 5週間で英語が話せるようになるかという、そうではなかった。でも、私たちのヘタな英語でもなんとかコミュニケーションは取れた。何よりの収穫は、英語を話すことを恐れなくなったこと。Cityに出て、道がわからなくなっても「Police manに聞けばいいか。」とか、わからなかったら聞くということがスムーズに出来るようになったし、生の英語だと学校で習ったような難しい文法・単語なんてあまり使っていないことに気づき、私も簡単に話せばいいんだと思えた。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- * 英語を使えるようになるには、とにかく話すことだと痛感しました。だから文法なんかは気にせず、とにかく使って、使って、使いまくってください。そして、いろんな国の友達・ホームスティの方々とは仲良くなってください。
- * 授業中に先生から言われた言葉です。Don't waste your time in Australia.
- * 一日一日を大切に、オーストラリアでしか出来ないことをした方が良いと思う。放課後、映画を観たりするのも勉強になるけど、私はいつも早めに家に帰ってホストファミリーと話すようにしたり、バス停でバスを待っているときも耳を澄まして外国人の話を聞いたりしていました。
- * お金と時間があるなら、ぜひ参加すれば良いと思う。1ヶ月以上まとまって海外にホームスティをする機会なんて、学生時代でしか出来

ないと思う。オーストラリアという異国の地での新鮮で充実した様々な体験は、きっとあなたにとって貴重なかけがえのない宝物になるだろう。出発する前に、オーストラリアで自分は何をしたいのか、目標を決めておくとか有意義な毎日を送れると思う。また、事前に英語のSpeaking, Listeningを中心に勉強しておくとか良いと思う。何事にも挑戦して、楽しんでください。

- * 自分からいろんなことに挑戦していった方が自分をさらに成長することができます。がんばってください。
- * お茶が恋しくなりそうな人は、持っていった方が良い。私は、麦茶(それがダメなら緑茶)をスーパーで探したけれど、日本と同じようなものはみつけられなかった。みつけたとしても、高かったと思います。
- * 留学期間は思っていたより短く感じます。アクティブに動いた方が良いと思います。
- * 日本人は、文法どおりに上手にしゃべろうとするので、つまってしまいます。とにかくリラックスして、単語一つでも伝わるので、なるべく簡単に話すことを心がけるとうまくコミュニケーションが取れると思います。
- * 必ず、今までにない貴重な体験ができると思います。参加して自分に自信をつけて帰ってくるのも良いと思いますよ。
- * 行く価値は絶対にある!! いろんなことを経験してください。一人旅はおススメ。

8. お礼の手紙について (e-mail を含む)

- ・出した 5人
- ・出していない 5人

岐阜大学夏期短期留学（サマースクール）担当者一覧

部 局	氏 名	備 考
留学生交流委員会 委員長 教育担当理事	佐々木 嘉 三	総括責任者
留学生交流委員会 副委員長 留学生センター長	武 脇 義	副総括責任者・エクスカージョン引率・ 日本事情講義
教育学部	原 田 信 之	エクスカージョン引率
地域科学部	三 谷 晋	広報担当・エクスカージョン引率
医学系研究科・ 医学部	安 達 洋 祐	医療担当
工学部	山 本 秀 彦	歓送迎会担当
応用生物科学部	芳 村 了 一	見学引率
連合大学院	阿 閉 泰 郎	見学引率
留学生センター	太 田 孝 子	派遣コーディネーター・広報担当
	森 田 晃 一	受入コーディネーター・エクスカージョン 引率・日本事情講義
	橋 本 慎 吾	日本語総括・日本事情講義
	土 谷 桃 子	歓送迎会担当・広報担当・日本事情講義
	宮 谷 敦 美	宿舎担当・日本語授業・国際理解授業担当

は、留学生交流委員会委員でない者を示す。

サマースクールで来日した外国人学生は、いい人、いい場所に恵まれて、日本人でもなかなか体験できない日本体験パックを経験しました。うらやましいかぎり。しかし、たぶん、これは日本のいい人、きれいな場所をおいしくきりとしたもので、本当の日本を知るには、イヤな人イヤな場所イヤな習慣などの体験が必要なのではないかとも思います。ただ、そういう表も裏も知る日本通になる過程で、サマースクールでのおいしい体験がいつまでも残ってくださることを期待してやみません。

そうそう、京都で夜に外出した人々のなかで、靴をなくした人がいました。はて、いったい何をやったら靴をなくすのだろうか…。いまだに謎はとけません。

(み)

私にとって初めての岐阜大学サマースクールが、この報告書の完成をもっていよいよ完結する。受入を担当したが、何から手をつけていいのか全くわからず、経験豊かな先生方や事務の方々に一つ一つお教を請いながらのサマースクールであった。今年度の経験を糧にして、来年度は手際よく諸事進めていければと思っている。

今回のルンド大学、ソウル産業大学からの学生は、皆気持ちのいい、会うのが楽しみになるような学生ばかりだった。この報告書に掲載されている彼等の作文や写真を見ながら、これからも何度も思い出すことになるだろう。初めてのサマースクールをこのような学生とともに過ごせたことを感謝している。そして素晴らしい宿舎チューターの皆さんや、本当の家族のように学生を受け入れてくださった暖かいホームステイファミリーの皆様に、心からの感謝を申し上げたいと思う。

(つ)

サマースクール（派遣）参加者に対して毎年実施している「英語事前研修」を、今年は参加者が決定した直後から開始した。チャックとアンディという強力な講師の尽力により、出発前までに、「英語で話したり、話しかけられたりすること」への恐怖(?)からは解放させ、オーストラリアへ送ることができた。事前研修も功を奏してか、サマースクール終了後にグリフィスから送られてきた成績証明書は10名全員立派なものだった。出発前は名字で呼び合っていた参加者が、帰国後は名前やニックネームで呼び合い、とても親しくなっている。報告書からも、「本当にいいサマースクールだったんだな」ということが伝わってくるが、この体験をいろいろな場面で生かして行ってほしいと願っている。

(お)

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール 2006 報告書

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1
発行年月日 2006 年 12 月
発 行 者 岐阜大学
電 話 058-293-2142
F A X 058-293-2143
印 刷 株式会社コムラ



Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center

